

痴呆性高齢者の中期予測と福祉産業

—— 都道府県別および名古屋市・知多・三河地域について ——

Medium-term Forecast of Demented Elderly and Welfare Industry

高橋 紘一
Koichi TAKAHASHI*

目次

はじめに

- 1 痴呆性高齢者数の推計方法
 - 1-1 寝たきり高齢者数の推計
 - 1-2 痴呆性高齢者数の推計
 - 1-3 痴呆性高齢者予測の限界
- 2 都道府県別痴呆性高齢者数の中期予測
 - 2-1 将来推計人口データについて
 - 2-2 高齢者数の中期予測
 - 2-3 高齢化率の予測
 - 2-4 痴呆性高齢者数の中期予測
 - 2-5 2030年の都道府県別男女別5歳階級別痴呆性高齢者の状況
- 3 名古屋市・知多・三河地域の痴呆性高齢者数の中期予測
 - 3-1 中期人口予測
 - 3-2 高齢者数の中期予測
 - 3-3 高齢化率の中期予測
 - 3-4 痴呆性高齢者数の中期予測
 - 3-4-1 愛知県
 - 3-4-2 名古屋市

* Professor, Faculty of Healthcare & Business Management, Nihon Fukushi University

3 - 4 - 3 知多地域

3 - 4 - 4 西三河地域

3 - 4 - 5 東三河地域

3 - 5 1 平方km当たり痴呆性高齢者数の予測

4 痴呆性高齢者に対する都道府県別福祉産業の需要予測

おわりに

キーワード

介護保険 痴呆性高齢者 要介護高齢者 推計方法 中期予測 男女別 5 歳階級別 出現率

都道府県 愛知県 名古屋市 知多地域 三河地域 福祉産業 介護保険施設 グループホーム

はじめに

痴呆性高齢者の介護が介護保険の大きな課題であることがようやく公的に認識された。すなわち、『2015 年の高齢者介護～高齢者の尊厳を支えるケアの確立に向けて～』において「介護・支援を要する痴呆性高齢者の今後の大幅な増加を見越した場合、介護保険サービスを含む地域の高齢者介護全体を、介護予防から終末期に至る全ステージで、痴呆性高齢者を標準とした仕様に転換していくことが、21 世紀初頭の大きな課題」¹と位置づけられたからである。

ここで、「ようやく認識された」と表現した理由は、すでに筆者が 1992 年に「2000 年の痴呆性高齢者——その都道府県別状況」²において、2000 年だけでなく、2020 年まで予測しているが、75 歳以上の痴呆性高齢者が激増することを警告しているからである。

21 世紀の「高齢社会」と特徴づけるひとつに、前述のような痴呆性高齢者の問題がある。私たち「福祉産業研究会」では、文部科学省から科学研究費補助金を得て、2002 年度から「高齢社会における企業貢献と福祉産業のビジネス展開に関する研究」（代表は筆者）を開始した。

この論文はその成果の一部であるが、都道府県別及び名古屋市・知多地域・三河地域の自治体別に痴呆性高齢者数の中期予測および痴呆性高齢者に関連する福祉産業（民間企業だけでなく非営利組織、公的部門も含む³）、とくに、介護保険施設・グループホームについて、都道府県別に中期的な需要予測を行ってみたい。

1 痴呆性高齢者数の推計方法

1 - 1 寝たきり高齢者数の推計

痴呆性高齢者数は、推計高齢者人口に痴呆性高齢者の「出現率」を乗じて予測する。したがって、ベースとなる人口推計方法と、痴呆性高齢者の「出現率」によって予測数値が影響をうける。

人口推計の方法は、センサス変化率法、コーホート要因法があるが、どちらを採用するにしても、過去のデータから機械的に人口推計ができる。

それに対して、後述のように、「出現率」は「福祉計画」策定設計者の自由意志に任されてきたといつてよい。そこで、まず寝たきり高齢者など広義の要介護高齢者数の「出現率」を振り返ってみたい。

要介護高齢者数の推計は、「老人保健福祉計画」を策定する上での基礎作業として全国的に始まった。第1期の日本全体の「老人保健福祉計画」である“ゴールドプラン”では、2000年における寝たきり高齢者は、1990年4月24日に参議院社会労働委員会で旧厚生省が答弁しているように100万人と想定していた⁴。

それに対して、筆者は、政府統計を用いて独自に「出現率」を算出し、1991年の段階で、2000年の寝たきり高齢者を120万人と予想した⁵。すなわち、『昭和59年厚生行政基礎調査報告』による寝たきり高齢者の在宅および入院別、ねたきり期間6ヶ月未満と以上、男女別、年齢階級別の数値に、『社会福祉施設調査報告』(昭和59年10月調査分)の年齢階級別男女別特別養護老人ホーム在在者数を加えて、全体の寝たきり高齢者の出現率を推定した。それが、表1-1「寝たきり高齢者の出現率の推定(在宅+入院+施設):6ヶ月未満も含む」である。

この「出現率」を、当時の厚生省人口問題研究所の1987年1月推計の「都道府県別将来人口」に乗じて、2000年の寝たきり高齢者を120万人と推計した。

その後、旧厚生省は、『厚生白書』1999年版によると、男女別ではないが状態別で年齢階級別の「出現率」を用いて、寝たきり高齢者(寝たきりでかつ痴呆の者を含む)が120万人、要介護の痴呆性高齢者(寝たきり者をのぞく)が20万人、虚弱高齢者が130万人、合計280万人という予測をした⁶。つまり、寝たきり高齢者に関しては、筆者が1991年に推計した数字と同じになっている。これだけで判断するのは危険であるが、「男女別5歳階級別出現率」はそれなりの有効性をもっていると考えられる。

実際はどうだったか。介護保険における2001年3月における要介護認定者数は271万人、受給者数は201万人であり、ほぼ旧厚生省の予測数になっている⁷。

第1期の「老人保健福祉計画」を策定する際には、「出現率」を誤読して用いた自治体もあった。例えば、東京都T区の場合は、65歳以上で6ヶ月以上寝たきり等または痴呆の状態にあり、食事・入浴・排便など日常生活を営む上で著しい障害がある人を対象とする「老人福祉手当」の

表1-1 寝たきり高齢者の「出現率」(推定):6ヶ月未満も含む — 在宅+入院+施設 —

	65~69歳	70~74歳	75~79歳	80歳以上	平均
男	2.44	3.59	5.23	11.45	4.59
女	1.63	3.32	6.33	15.28	5.51
平均	1.99	3.43	5.87	13.9	5.13

(出所) 厚生省『昭和59年度厚生行政基礎調査報告書』、『社会福祉施設調査報告』より高橋紘一算出。

受給者を男女別・年齢階級別に区分して「出現率」を出し、さらに在宅と入院に区分している珍しい事例で、東京都の都市部で悉皆調査ができない次善の策としては最も妥当性のある推計方法である可能性があった。しかし、「老人福祉手当」の受給者には、老人保健施設と特別養護老人ホーム入所者や入院者数が入っていないことを見逃して「出現率」を計算し、「老人保健福祉計画」策定に用いてしまった。

東京都都市部 T 市の場合は、寝たきり、痴呆性の両者について、「在宅」の出現率を「全体」の出現率と読みまちがって要介護高齢者数を推定してしまった。寝たきりの「出現率」については『東京都社会福祉基礎調査報告——平成 2 年度』を用い、痴呆性高齢者の「出現率」も東京都福祉局の『高齢者の生活実態及び健康に関する調査報告書——昭和 62 年度』という古い資料を用いていた。両資料とも注意深く読めば、在宅高齢者を対象とした調査であることがわかるはずである。この誤読に全く気がついていないことは、本文に「この推計には、在宅の要介護高齢者だけでなく、病院や施設に入所している者も含んでいる」⁸と明確に記述していることから明らかである。ただし、この誤読は T 市だけではなく、隣の M 市も同様に行なっている。

また、T 市の「在宅出現率」は「平均出現率」を用いているため、「在宅」要介護高齢者数がより多く推定されてしまっている。これは、T 市の場合、「在宅出現率」が高くなる 80 歳以上の超高齢者数が少ないためである。つまり、男女別・年齢階級別に「出現率」は異なるのであるから、「平均出現率」を用いると、その自治体の人口構成によって、要介護高齢者数を多く推定したり、少なく推定してしまったりするということである。

さらに、このようにして推計した「在宅要介護高齢者数」に、「在宅率」を乗じて“在宅”要介護高齢者数を推定している。「在宅要介護高齢者数」を全体の要介護高齢者数と読みまちがっているので、このような算式になるのは必然であろう。

筆者は、要介護高齢者数を推計する際は、年齢階級別、男女別に推計することが必要だと考えている。その理由は、自治体によって年齢構造が異なること、住民にとって将来が具体的なイメージとして把握できることである。しかし、在宅、施設、入院という全ての居場所における男女別年齢階級別「出現率」の算出は容易ではない。例えば、以下の表 1-2 も厚生省資料であるが、年階級別にはなっているが、男女別にはなっていない。

表 1-2 要介護高齢者の発生率

	(%)				
	65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85 歳以上
寝たきり高齢者（寝たきりでかつ痴呆の者を含む）	1.5	3.0	5.5	10.0	20.5
要介護の痴呆性高齢者（寝たきり者を除く）	0.0	0.5	1.0	1.5	3.5
虚弱高齢者	2.0	3.0	6.5	11.0	20.5

資料：厚生省資料（1994 年）

（注）厚生省大臣官房統計情報部『国民生活基礎調査』、『社会福祉施設等調査』、『老人保健施設実態調査』、『患者調査』、地方老人保健福祉計画研究班痴呆性老人調査・ニーズ部会「老人保健福祉計画策定に当たっての痴呆性老人の把握方法等について」等から推計。

（出所）『厚生白書』1999（平成 11）年版，p. 172。

表 1 - 3 男女別，年齢階級別 65 歳以上の「在宅の寝たきり高齢者出現率」

(%)

		65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80 歳以上	平均
男	寝たきり等の高齢者	1.3	2.3	3.3	10.7	3.4
	寝たきり高齢者	0.4	0.8	0.8	5	1.3
	寝たきりに近い高齢者	0.9	1.5	2.5	5.7	2.1
女	寝たきり等の高齢者	0.7	1.4	4.1	14.1	3.8
	寝たきり高齢者	0.1	0.2	1.4	6.9	1.6
	寝たきりに近い高齢者	0.6	1.2	2.7	7.2	2.3
平均	寝たきり等の高齢者	1	1.8	3.8	12.7	3.6
	寝たきり高齢者	0.2	0.5	1.2	6.1	1.4
	寝たきりに近い高齢者	0.8	1.3	2.6	6.6	2.2

(出所) 東京都『高齢者の生活実態』1990 (平成 2) 年度, p. 54.

表 1 - 4 男女別，年齢階級別 65 歳以上の「在宅の寝たきり高齢者出現率」

(%)

		65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85 歳以上	平均
男	寝たきり等の高齢者	1.1	2.1	3.9	5.9	14.1	3.1
	寝たきり高齢者	0.3	1.2	2.0	2.1	6.8	1.4
	寝たきりに近い高齢者	0.8	0.8	2.0	3.8	7.3	1.7
	比較的重い障害のある高齢者	1.6	2.3	2.2	6.2	15.6	3.1
	軽い障害のある高齢者	9.0	16.2	25.0	37.2	35.6	18.4
	障害のない高齢者	88.2	79.4	68.8	50.7	34.6	75.4
女	寝たきり等の高齢者	1.0	1.6	3.6	6.7	21.8	3.9
	寝たきり高齢者	0.4	0.6	1.8	2.4	13.2	1.9
	寝たきりに近い高齢者	0.6	1.1	1.9	4.2	8.6	2.0
	比較的重い障害のある高齢者	1.7	2.2	4.4	4.9	14.1	3.7
	軽い障害のある高齢者	10.2	15.0	24.1	33.9	39.3	19.5
	障害のない高齢者	87.1	81.2	67.8	54.5	24.8	73.0
平均	寝たきり等の高齢者	1.1	1.8	3.7	6.4	18.8	3.5
	寝たきり高齢者	0.4	0.8	1.8	2.3	10.7	1.7
	寝たきりに近い高齢者	0.7	1.0	1.9	4.0	8.1	1.9
	比較的重い障害のある高齢者	1.7	2.2	3.5	5.4	14.7	3.4
	軽い障害のある高齢者	9.6	15.5	24.5	35.3	37.9	19.0
	障害のない高齢者	87.7	80.4	68.2	53.0	28.6	74.1

(出所) 東京都『高齢者の生活実態』1995 (平成 7) 年度, p. 81.

(注) 寝たきり高齢者

- ・ 全くの寝たきり (ねがえり不可)
- ・ 全くの寝たきり (ねがえり可)
- ・ ねたきり, ほとんど寝たきり

寝たきりに近い高齢者

- ・ 寝たり起きたり
- ・ 起きてはくるがあまり動かない

比較的重い障害のある高齢者

- ・ 全く (ほとんど) 聞こえない
- ・ 全く (ほとんど) 見えない
- ・ 手伝ってもらえば一人で入浴できる, など

以上の表 1 - 3 および表 1 - 4 は、東京都調査による「出現率」であるが、「在宅」の「出現率」である。

以下の表 1 - 5 は、東京都世田谷区の場合で、男女別・年齢階級別になってはいるが、「施設」が抜けている。

各地方自治体が「老人保健福祉計画」を策定した際には、自治体ごとに高齢者の実態調査を行い、それに基づき寝たきり高齢者等を推計したが、65 歳以上人口に「平均出現率」を乗じて算出した場合が多く、詳細に推計するといっても、せいぜい前期高齢者と後期高齢者別に「出現率」

表 1 - 5 世田谷区寝たきり等高齢者（寝たきり + 痴呆）の出現率 — 在宅 + 入院 —

(%)						
	65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85 歳以上	平均
男	0.67	1.65	3.55	5.89	12.4	2.95
女	0.75	1.7	3.93	9.18	23.2	5.05
平均	0.71	1.68	3.78	7.94	19.6	4.2

(出所) 世田谷区高齢対策室『高齢者実態調査結果報告書 — ひとりぐらし、高齢者のみの世帯、ねたきり等高齢者の実態平成 5 年度』1993 年 12 月, p. 33.

(注 1) ねたきり等高齢者 = 65 歳以上で、老衰や心身の障害により常時臥床の状態、あるいは痴呆のため常に家族の注意または看視を必要とする状態で、食事・入浴・排泄のいずれかに他の人の手を借りなければならぬ状態が 3 ヶ月以上継続している方。(養護老人ホーム・特別養護老人ホーム入所者を除く)

(注 2) 調査方法：民生委員が高齢者名簿をもとに各担当区域内の高齢者を確認し、そのうち、高齢者・高齢者のみの世帯・ねたきり等高齢者の該当者について、本人あるいは家族に面接聴取し、調査した。

(注 3) 原表は、年齢区分が 85～89 歳、90 歳以上になっているが、実数にもとづいて、85 歳以上を計算した。

表 1 - 6 痴呆と寝たきり度別にみた訪問看護ステーション利用者数 (介護保険法による利用者)

2000 (平成 12) 年 9 月

	総数		寝たきり度						寝たきり者(再掲)
			障害なし	ランク J	ランク A	ランク B	ランク C	不詳	
介護保険法	168,597(人)		1,800	17,070	53,471	46,418	49,111	728	95,529
		100.0(%)	1.1	10.1	31.7	27.5	29.1	0.4	56.7
痴呆あり	120,222	71.3	0.4	5.7	20.2	20.4	24.5	0.1	44.9
ランク	38,673	22.9	0.2	3.6	9.2	6.3	3.6	0.0	9.9
ランク	30,308	18.0	0.1	1.5	6.7	5.8	3.8	0.0	9.6
ランク	24,823	14.7	0.1	0.5	3.1	5.2	5.7	0.0	11.0
ランク	21,104	12.5	0.0	0.1	0.9	2.8	8.7	0.0	11.4
ランク M	5,313	3.2	0.0	-	0.1	0.3	2.7	0.0	3.0
痴呆なし	47,109	27.9	0.7	4.3	11.5	7.0	4.4	0.1	11.4
不詳	1,266	0.8	0.0	0.1	0.1	0.1	0.3	0.2	0.4

(注 1) 寝たきり者」はランク B とランク C を合わせた者をいう。

(注 2) 痴呆及び寝たきり度のランクは、「痴呆性老人の日常生活自立度判定基準」及び「障害老人の日常生活自立度 (寝たきり度) 判定基準」による。

(出所) 『平成 12 年介護サービス施設・事業所調査』表 24

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/kaigo/service00/kekka4.html> 04 年 06 月 21 日

を乗じただけであった。

表1-6は厚生労働省『介護サービス施設・事業所調査』による介護保険法による訪問看護ステーション利用者の「痴呆と寝たきり度別の出現率」で、「痴呆あり」が71.3%、「寝たきり者(ランクBとランクCを合わせた者をいう)」が56.7%、「痴呆ありで寝たきり者」は44.9%であるが、残念ながら、全体的状況でもないし、「男女別・年齢階級別」になっていないために、筆者の目的には使えない。

それに対して、筆者は、2001年に「2025年の要介護高齢者数の推定——都道府県別状況」において、介護保険受給者データおよび国立社会保障・人口問題研究所の1997年中位推計をもとに、男女別5歳階級別「出現率」を用いて、2005年から5年ごとに2025年までの都道府県別要介護高齢者の予測を行った⁹。

さらに、国立社会保障・人口問題研究所が2000年10月1日の『国勢調査報告』をもとに新しい将来人口を発表したので、これをもとにして、筆者は、2002年に認定者ベースで「要介護高齢者数600万人時代」¹⁰を発表した。

その際に用いた「出現率」は、表1-7である。

「老人保健福祉計画」(『介護保険事業計画』を含む)は5年先までの予測を行い、3年ごとに再予測をして「老人保健福祉計画」策定しなおし、介護保険料を再設定することになっている。それに対して、予測精度が相当に下がることは理解しつつも、筆者が中長期の要介護高齢者数の予測をする理由は、第1に、当面の対策は「老人保健福祉計画」によって考えるとしても、中長期的な対策のイメージの材料を得るために、つまり、早め早めに対策を講じることによって将来を変えることができる。第2に生活実感に近い男女別5歳階級別の予測が見あたらないからである。

表1-7 男女別、5歳階級別、要介護度別 要介護認定高齢者出現率

		2001年11月現在 (%)						
		平均	要支援等	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
男	65～69	2.50%	0.18%	0.59%	0.59%	0.40%	0.36%	0.38%
	70～74	5.02%	0.44%	1.22%	1.11%	0.78%	0.74%	0.74%
	75～79	9.28%	1.02%	2.39%	1.96%	1.36%	1.30%	1.24%
	80～84	17.83%	2.19%	4.79%	3.64%	2.55%	2.44%	2.22%
	85歳以上	35.72%	3.72%	9.53%	7.38%	5.55%	5.30%	4.24%
女	65～69	2.38%	0.34%	0.76%	0.46%	0.27%	0.24%	0.29%
	70～74	5.77%	1.07%	1.92%	1.00%	0.59%	0.56%	0.62%
	75～79	13.39%	2.66%	4.53%	2.17%	1.35%	1.29%	1.39%
	80～84	27.31%	4.64%	9.02%	4.57%	3.03%	3.00%	3.05%
	85歳以上	50.61%	4.42%	13.04%	9.32%	7.36%	8.49%	8.00%

1-2 痴呆性高齢者数の推計

第1期「老人保健福祉計画」を策定する際、痴呆性高齢者数の将来予測にあたっては、寝たきり高齢者の予測と同じく、「出現率」を調査する必要があったが、各自治体での実態調査において、医師が医学的な診察や検査によって在宅・施設・入院別に調査して痴呆性高齢者を把握することが必要であった。しかし、「医師等のマンパワーを考えただけでも不可能と言わざるを得ない」¹¹という状況であった。

そこで、厚生省は、1992年「老人保健福祉計画策定に当たっての痴呆性老人の把握方法等について」（以下『把握方法』と略）痴呆性高齢者の「出現率」を公表した。この『把握方法』では「痴呆」とは何かについて精神医学分野における当時の一般的な定義、すなわち「一旦正常に発達した知的機能が後天的な脳の器質的障害により持続的に低下し、日常生活や社会生活が営めなくなっている状態」を用いている。『把握方法』では、国立精研式等の精神医学的マスキリーニングの技術を用いて保健婦等の訪問調査の可能性を探るのだが、マンパワーの確保および家族の感情を無視できないということで、「これまでの調査から得られている痴呆性老人の出現率を各市町村に当てはめる方法」を述べている¹²。

『把握方法』では、痴呆性高齢者の出現率の推定にあたって「信頼できると考えられた11都府市の調査結果を基に、昭和62年（1987年）に厚生省の痴呆性老人対策本部が、また、これらの調査結果に加えて医療施設調査、社会福祉施設調査、東京都老人総合研究所による調査等の分析を加えて平成3年（1991年）3月に厚生科学研究（長寿科学総合研究事業）『痴呆疾患患者ケア及びケアシステムに関する研究』が、全国的な痴呆性老人の人数を推定している。この両者の数値は、分析基礎となった調査の共通性からほぼ同一の結果となっている。ここでは新しいデータを用いるということから、後者の研究結果に依拠しながら出現率を整理」し、男女別、65歳以

表1-8 痴呆性高齢者の出現率——在宅+入院+施設——

(%)

	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	平均
男	2.1	4	7.2	12.9	22.2	5.8
女	1.1	3.3	7	15.6	29.8	6.7
平均	1.5	3.6	7.1	14.6	27.3	6.3

(出所) 厚生省「老人保健福祉計画策定に当たっての痴呆性老人の把握方法等について」1992年2月。

表1-9 在宅の痴呆性高齢者の出現率

(%)

	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	平均
男	1.6	3	5.3	9.7	16.7	4.4
女	0.8	2.5	5.1	11.8	22.9	5.1
平均	1.1	2.7	5.2	11	20.9	4.8

(出所) 厚生省「老人保健福祉計画策定に当たっての痴呆性老人の把握方法等について」1992年2月。

上5歳階級きざみで84歳までと85歳以上までの10区分の出現率を、「在宅」の場合と「在宅および病院・施設」の場合の二ケースについて算出している。以上の表1-8および表1-9がそれである。

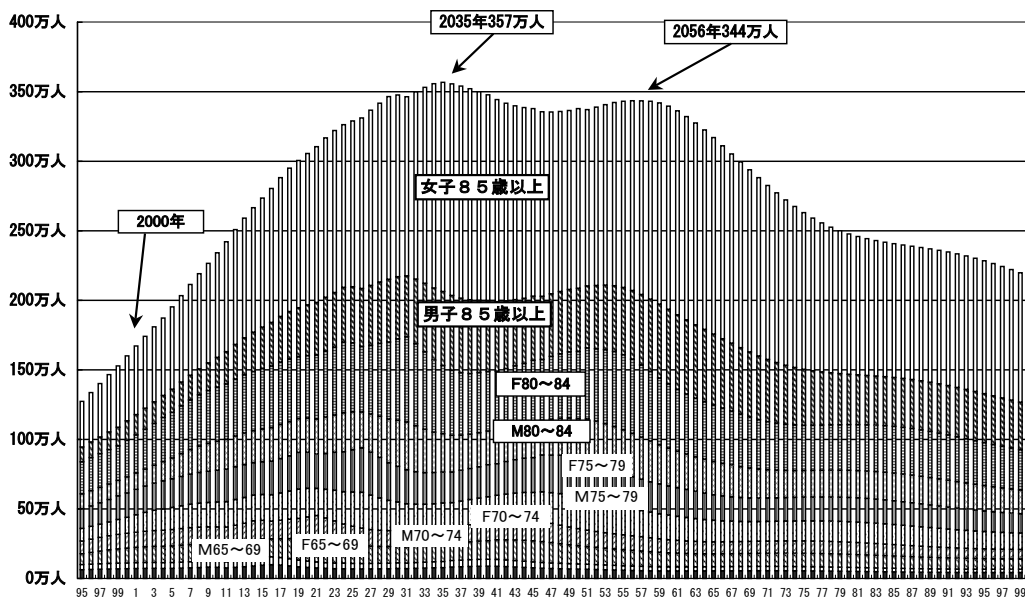
しかし、「老人保健福祉計画」を策定する際に、ほとんどの自治体において痴呆性高齢者を予測するために用いた「出現率」は、在宅の痴呆性高齢者の「出現率」で、しかも男女別・5歳階級別ではなく、「平均」を用いて推定を行った。

それに対して、筆者は、この在宅・入院・施設を加えた全体の「出現率」を用いて、1992年に、2000年の痴呆性高齢者数は150万9600人と予測した¹³。2003年の『2015年の高齢者介護～高齢者の尊厳を支えるケアの確立に向けて～』においては、2002年「痴呆性老人自立度 以上」の人数を149万人と推計している。筆者の推計とほぼ同じといってよい。

次に、筆者は1998年に、同じ方法を用いて、国立社会保障・人口問題研究所の『日本の将来推計人口』（1997年1月推計）のデータをもとにして、痴呆性高齢者の長期予測を行い¹⁴、痴呆性高齢者対策の重要性を訴えた。その際に掲載した図を修正したのが、図1-1である。

以下、この論文における都道府県別および名古屋市・知多地域・三河地域の痴呆性高齢者数の中期予測を行なうにあたって、以上の男女別5歳階級別の『把握方法』の表1-8の出現率を用いた。

図1-1 痴呆性高齢者総数の予測（中位推計による）



(出所) 高橋紘一作図、本文を参照されたい。

1-3 痴呆性高齢者予測の限界

この論文で行う痴呆性高齢者の中期予測には、次のような限界があるので、注意していただきたい。まず、第1に、痴呆性高齢者数の予測のベースとなる将来推計人口データは、相当変動するということである。過去のデータを利用しているために、大規模な災害や、大規模な開発など予想できなかった事象が生じた場合には、予測数値に大きな影響を与える。1.29ショックのような合計特殊出生率が仮定値よりも大きく下回った場合の影響も大きい。また、ここでは、都道府県別・市町村別の将来推計を用いるが、地方自治体の場合、転入・転出などの人口移動は、経済成長・地域の開発等に大きな影響を受けることに注意しなければならない。

第2に、痴呆性高齢者を予測する際に用いた「出現率」は、前述のように『把握方法』による「出現率」を用いたが、金子満雄氏による最近の研究によれば「何より重要な発見は、(脳血管障害など、高橋注)器質的な病因のみつかるものは全痴呆の7%程度で、その他の大部分は生活習慣病に属する老化・廃用型痴呆であったこと」¹⁵だとすれば、この『把握方法』による「出現率」は、それなりの有効性を持つと考えてよいのではないだろうか。この『把握方法』以後において、痴呆性高齢者の生活環境の改善や有効な治療薬が発見された場合には、「出現率」が減少することも考えられるが、その影響は今回の推計では、考慮していないことに注意されたい。

第3に、痴呆性高齢者の出現率は、自治体ごとに異なっているはずであるが、ここで用いている「出現率」は、前述のように全国平均の出現率であることである。

それにもかかわらず、『把握方法』の「出現率」を採用した理由は、男女別で5歳階級別であり生活実感に近いこと、ならびに在宅・施設・病院という全体の「出現率」だからである。

したがって、ここでの推計は、細かい数字も提供するが、概数として理解されたい。

2 都道府県別痴呆性高齢者数の中期予測

2-1 将来推計人口データについて

将来推計人口は、国立社会保障・人口問題研究所が5年ごとに、『国勢調査報告』に基づき、全国人口、都道府県別、市区町村別に行っているが、都道府県別痴呆性高齢者および名古屋市・知多・三河地域の痴呆性高齢者数の将来予測の際には用いない。その理由は、「年齢3区分」のデータとしては公表されているが、筆者が追求している男女別5歳階級別データとして入手できなかったからである。

この論文で用いた市区町村別男女別5歳階級別将来推計人口は、財団法人統計情報研究開発センターよるデータで、電子ファイルとして科研費により購入した。この資料は、日本女子大学人間社会学部の大友篤教授の指導の下に、1995(平成7)年国勢調査及び2000(平成12)年国勢調査の年齢5歳階級別人口を基に、2005年から5年ごとに2030年まで推計している。市区町村別将来人口の推計に際しては、将来における市区町村間の人口移動の動向を考慮しなければならないのであるが、統計資料が必ずしも十分でないこと及び作業量からも困難であることから、

1995年と2000年における国勢調査の男女、年齢5歳階級別人口のみを用いて、「コーホート変化率法」と呼ばれる方法を用いて推計を行っている。すなわち、すべての市区町村において、1995年から2000年までの5年間における男女、年齢5歳階級別死亡と人口移動の動向および2000年における出生力の水準が将来も同様に持続するものと仮定して推計している¹⁶。

表2-1は、統計情報研究開発センターの推計と、国立社会保障・人口問題研究（以下「人口研」と略）の低位推計・中位推計および高位推計について、総人口・高齢者人口・高齢化率を比較した表である。高齢者人口については、人口研の推計は、高位推計・中位推計・低位推計とも同じ数値であることに注意されたい。総人口の推計数値を人口研の中位推計と比較すると、2015年までは、統計情報研究開発センターの推計は人口研を下回っているが、2020年からは上回っている。

高齢者人口は、統計情報研究開発センターが2005年段階では83万人、2030年段階では154万人下回っている。したがって、後述の痴呆性高齢者の予測数は、人口研データをベースとした場

表2-1 統計情報研究開発センターと国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口データの比較

(千人)

	区 分	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年
総人口	統計情報研究開発センタ -	127,441	127,155	126,047	124,192	121,700	118,935
	国立社会保障・人口研低位推計	127,482	126,673	124,661	121,613	117,755	113,297
	国立社会保障・人口研中位推計	127,708	127,473	126,266	124,107	121,136	117,580
	国立社会保障・人口研高位推計	127,894	128,145	127,640	126,250	124,044	121,262
	-	- 41	482	1,386	2,579	3,945	5,638
	-	- 267	- 318	- 219	85	563	1,356
	-	- 453	- 990	- 1,593	- 2,058	- 2,344	- 2,327
高齢者	統計情報研究開発センタ -	25,309	28,453	32,239	33,608	33,489	33,226
	国立社会保障・人口研低位推計	25,392	28,735	32,772	34,559	34,726	34,770
	国立社会保障・人口研中位推計	25,392	28,735	32,772	34,559	34,726	34,770
	国立社会保障・人口研高位推計	25,392	28,735	32,772	34,559	34,726	34,770
	-	- 83	- 282	- 533	- 951	- 1,237	- 1,544
	-	- 83	- 282	- 533	- 951	- 1,237	- 1,544
	-	- 83	- 282	- 533	- 951	- 1,237	- 1,544
高齢化率	統計情報研究開発センタ -	19.9%	22.4%	25.6%	27.1%	27.5%	27.9%
	国立社会保障・人口研低位推計	19.9%	22.7%	26.3%	28.4%	29.5%	30.7%
	国立社会保障・人口研中位推計	19.9%	22.5%	26.0%	27.8%	28.7%	29.6%
	国立社会保障・人口研高位推計	19.9%	22.4%	25.7%	27.4%	28.0%	28.7%
	-	- 0.1%	- 0.3%	- 0.7%	- 1.4%	- 2.0%	- 2.8%
	-	0.0%	- 0.2%	- 0.4%	- 0.8%	- 1.1%	- 1.6%
	-	0.0%	0.0%	- 0.1%	- 0.3%	- 0.5%	- 0.7%

(注1) 統計情報研究開発センター『市区町村別将来推計人口』2002年2月より高橋紘一作成。

(注2) 群馬県および長野県のデータは、参考データを使用。

(注3) 「国立社会保障・人口研」は、国立社会保障・人口問題研究所を略した。2002年1月推計による。

合よりも少なめになることに注意されたい。「高齢化率」は、統計情報研究開発センターが2005年段階では同じであるが、次第に人口研の中位推計が高くなり、2030年段階では29.6%と1.6ポイント高くなっている。

2-2 高齢者数の中期予測

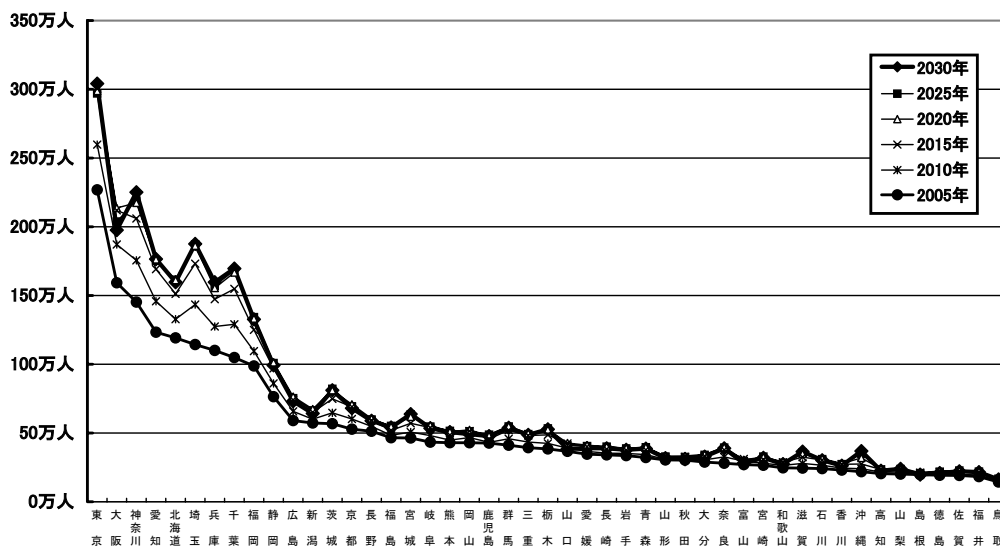
図2-1は、都道府県別の65歳以上高齢者の2005年から5年ごとに2030年まで描いた図である。2005年の段階で、高齢者が最も多い都道府県から並べ替えて図にしてあるので、2030年までの変化がよくわかる。なお、[付属資料-1]は「都道府県別将来推計人口」、[付属資料-2]において、「都道府県別年齢3区分将来推計人口」の2005年から5年ごとに2030年までのデータを掲載したので参考にされたい。

2005年の段階では、高齢者が最も多いのは東京都で227万人、第2位が大阪府の159万人、第3位が神奈川県145万人であるが、2030年になると、東京都が304万人、第2位が神奈川県の225万人、第3位が大阪府の198万人のように、首都圏への高齢者の集積がいつそう進むという予測結果になっている。

東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県の4都県の高齢者総数は591万人で全国高齢者総数に占める割合、集積率は23.4%であるが、2030年には886万人、集積率26.7%まで上昇する。2005年から2030年の高齢者の増加数でも、神奈川県が約80万人、東京都が77万人、埼玉県が73万人、千葉県が65万人、首都4都県合計で295万人増加し、全国増加数792万人の37.2%を占めている。このように、今後、高齢者はますます首都圏に集積すると思われる。

愛知県の場合も、2005年の高齢者数123万人集積率4.9%から、2030年には177万人集積率

図2-1 都道府県別65歳以上高齢者の予測(2005年から2030年まで)



(出所) 高橋紘一作図, 本文を参照されたい。

5.3%まで上昇する。大阪府の集積率は6.3%から5.9%に下がる。福岡県は3.9%から4.3%へ上がる。

一方、高齢者数が最も少ない島根県は、2005年から2030年までに28人増加するだけである。

つまり、図2-1でも明瞭のように、今後、ますます高齢者は大都市部に集中・集積していきと予想されるのである。

2-3 高齢化率の予測

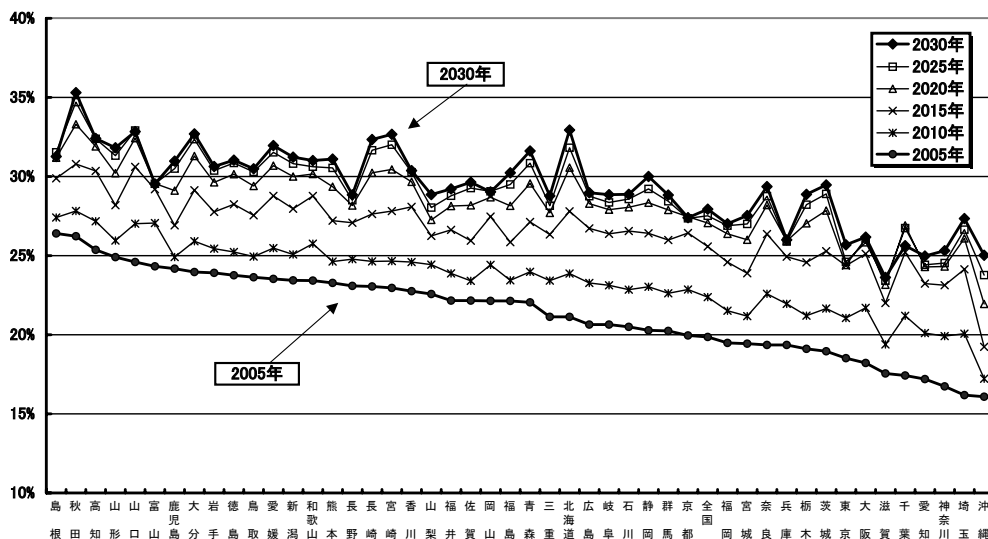
図2-2は、都道府県別の2005年から5年ごとの2030年までの「高齢化率」のグラフである。2005年の段階で「高齢化率」が26.4%と最も高い島根県から、16.1%と最も低い沖縄県の順番に並べ替え、その順番で5年ごとに2030年まで描いた図である。

2030年の段階で「高齢化率」が第1位は秋田県の35.3%、第2位が北海道の32.9%、第3位が山口県の32.8%など、30%を超える道県は21にのぼる。

2005年から2030年の間に「高齢化率」が最も多くなるのは、北海道で11.8ポイント増、第2位が埼玉県で11.2ポイント増、第3位が茨城県で10.5ポイント増、第4位が奈良県の10ポイント増となっている。

注意しなければならないことは、2030年の「高齢化率」が高くなったからといって、高齢者の絶対数も多くなったということではないことである。図2-1と比較してみれば明らかなように、北海道を除いては、高齢者の増加数は多くはないのである。

図2-2 都道府県別「高齢化率」の推移(予測)



(出所) 高橋紘一作図、本文を参照されたい。

2 - 4 痴呆性高齢者数の中期予測

都道府県別痴呆性高齢者の中期予測にあたっては、2005年から5年ごとに2030年まで、都道府県ごとの男女別5歳階級別推計人口に、前述の『把握方法』の男女別・5歳階級別の「出現率」を乗じて算出した。

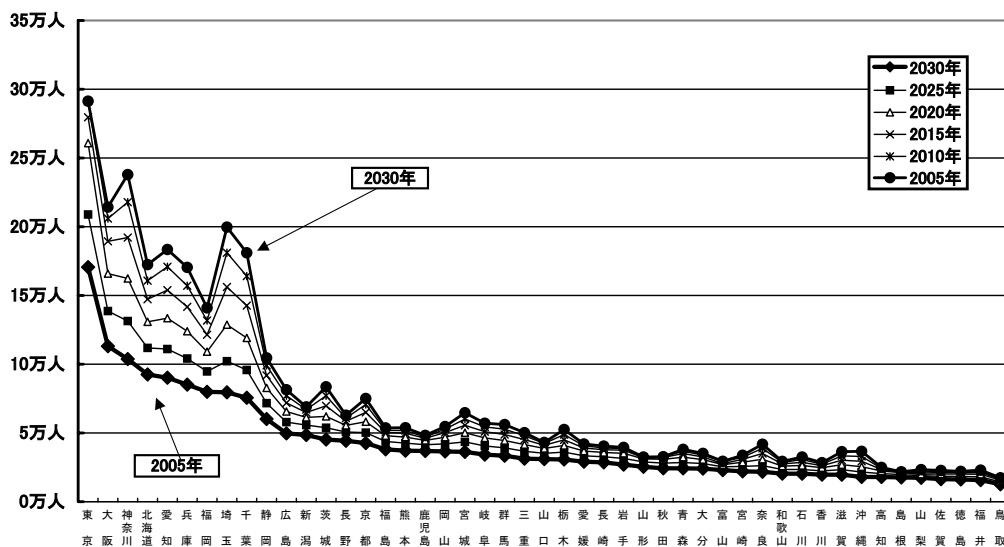
2005年の全国合計の痴呆性高齢者数は199万人、2030年は349万人、150万人の増加で75.4%増である。図2-3は、2005年の段階で、都道府県別で痴呆性高齢者の最も多い順番に並び替え、その順番で5年ごとに2030年までを描いた図である（数値データは、[付属資料-3]を参照されたい）。

都道府県別では、2005年の段階では、痴呆性高齢者が最も多いのは東京都の17万人、第2位は大阪府の11万人、第3位は神奈川県10万人であるが、2030年になると第1位はやはり東京都で12万人70.8%増になり29万人、第2位は入れ替わり神奈川県で13.4万人129.4%増の24万人、第3位は大阪府の10万人89.4%増の21.4万人である。

図2-3でも明らかのように、大都市部とくに首都圏への痴呆性高齢者の集積が進むと予想される。すなわち、2005年段階では、東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県の4都県の痴呆性高齢者の合計は43万人・集積率21.6%であるが、2030年になると48万人増の91万人・集積率26.1%となる見込みになった。この間の痴呆性高齢者の増加数をみると、神奈川県が13.4万人と全国で最も多く、東京都の12万人よりも多い。2005年と2030年間の痴呆性高齢者の増加率では、埼玉県が151%と全国でもっとも高い伸び率となっている。

愛知県の痴呆性高齢者は、2005年の9万人集積率4.5%から2030年18万人と2倍に増え集積率5.3%となる見込みである。

図2-3 都道府県別65歳以上痴呆性高齢者の予測（2005年から2030年まで）



(出所) 高橋紘一作図，本文を参照されたい。

首都圏、愛知県、大阪府、兵庫県の痴呆性高齢者の合計で見ると、2005年には72万人で集積率36.1%であるが、2030年では2倍強の148万人・集積率42.4%まで増加する見込みとなった。

2-5 2030年の都道府県別男女別5歳階級別痴呆性高齢者の状況

図2-4は、2030年における都道府県別男女別5歳階級別痴呆性高齢者の予測図である。5歳階級別男女別に65～69歳から積み重ねてあるので、人数の多少とともに、80歳以上の痴呆性高齢者が大量に出現することがわかる。

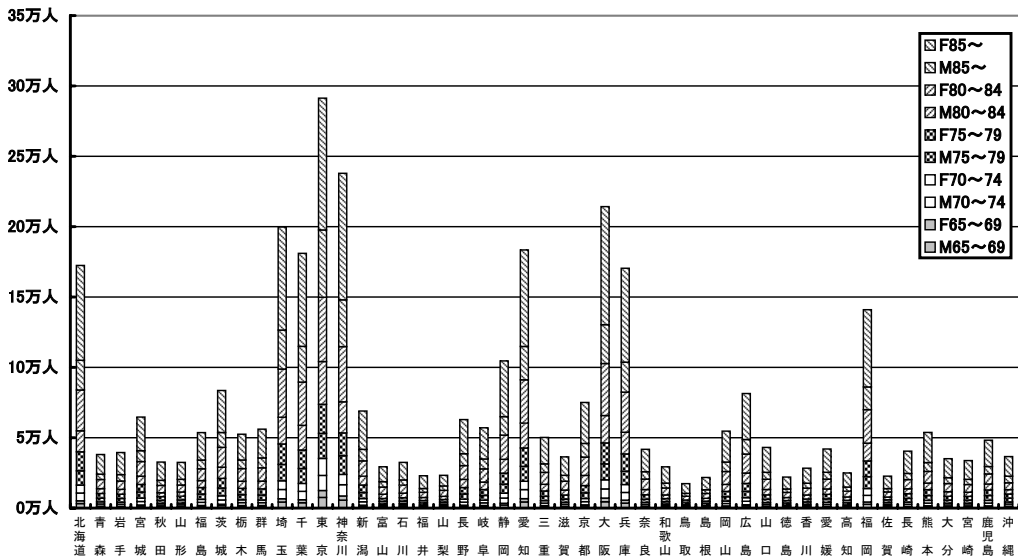
2030年は、総人口が1億1,893万人、65歳以上が3,323万人、高齢化率27.9%という「統計情報研究開発センター」の推計値を用いているが、痴呆性高齢者総数は349万人で65歳以上人口に占める「痴呆率」は10.5%である。都道府県別で最も「痴呆率」が高いのは、山口県の11.2%、以下広島県、岡山県、高知県、京都府と続くが、愛知県は34位の10.4%、最下位47位は東京都の9.6%である。

80歳以上の男女合計痴呆性高齢者の痴呆性高齢者総数に占める割合が最も高いのは、京都府78.7%で、以下広島市の78.5%、大阪府の78.4%と続き、愛知県は21位の76.7%、平均は76.4%、最も低い県は、沖縄県の72.7%である。

80歳以上女子痴呆性高齢者が65歳以上女子痴呆性高齢者に占める割合が最も高いのは、京都府の83.6%、以下山口県、広島市、岡山県、大阪府と続き、愛知県は16位の82.3%、平均値は81.8%、最下位は東京都の78.7%のように、約8割前後が80歳以上ということである。

同じ割合を男子について見ると、最も高いのは京都府の68.6%であるが、第2位は意外なことに東京都の68.4%、以下大阪府、千葉県、広島県、埼玉県、神奈川県と大都市の割合が高く、

図2-4 2030年の都道府県別65歳以上男女別5歳階級別将来推計痴呆性高齢者数



(出所) 高橋紘一作図，本文を参照されたい。

それぞれ67%台の割合となっている。ただし、愛知県は65.9%で18位、平均値は65.8%、最下位47位は青森県の58.7%、以下鹿児島県59.7%、沖縄県60.4%、佐賀県60.6%、福島県60.8%となっている。

以上のように、2030年段階における都道府県別男女別5歳階級別痴呆性高齢者を予測すると、女子の場合は80歳以上の痴呆性高齢者が女子痴呆性高齢者総数に占める割合は80%前後、男子の場合は60%台であるが、大都市部に集中するという特徴が見えてくる。

男女ともに、80歳以上になれば身体状況も要介護状態となる確率が高くなる。都道府県ごとに特徴をよく見極め、グループホームを含めた在宅中心で対策をたてるのか、介護保険施設、病院、有料老人ホームなど施設に重点をおくのか、多様な組合せは考えられるが、早め早めに対策を立てることが必要であろう。

3 名古屋市・知多・三河地域の痴呆性高齢者数の中期予測

次に、名古屋市、知多地域、西三河地域、東三河地域の痴呆性高齢者数の中期予測をしてみたい。これらの市町を選択した理由は、日本福祉大学に近いからである。全国すべての市町村についての痴呆性高齢者の中期予測が可能であるが、紙幅の関係で、日本福祉大学の近傍の市町を選択した。前述の都道府県の中期予測の方法ならびに以下の分析方法は、全国すべての市町村に適応可能であり、その基本データ、エクセルのワークシートも筆者の手元にあるが、具体例としてこの地域を選択したということである。

知多地域の市町は、半田市、常滑市、東海市、大府市、知多市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町である。西三河地域としては、岡崎市、碧南市、刈谷市、安城市、西尾市、知立市、高浜市、一色町、吉良町、幡豆町、幸田町、額田町、東三河地域としては、豊橋市、豊川市、蒲郡市、田原町、赤羽根町、音羽町、一宮町、小坂井町、御津町、渥美町である。田原町と赤羽根町は合併して田原市になっているが、後述のようにデータの関係上別個に扱う。

3-1 中期人口予測

まず、名古屋市・知多地域・西三河・東三河地域の痴呆性高齢者の中期予測をするにあたって、基本データとなる2005年から2030年までの人口総数のデータは、表3-1に掲載した。田原町と赤羽根町はこの推計後に合併して田原市になっていることに注意されたい。なお、年齢3区分別の将来推計人口は、[付属資料-4]を参照されたい。

2005年と2030年を比較して、すべての市町が人口減少になると予想していたが、人口増となる市町がある。名古屋市は約22万人の減少、知多地域は約3万人の減少になるが、半田市は4,785人、東浦町が8,850人、武豊町が2,968人の増加となっている。

西三河地域の場合、2005年と2030年を比較すると、全体では4万2千人余りの増となる見込みになり、岡崎市、刈谷市、安城市、知立市、高浜市が人口増という推計になっている。

表3-1 名古屋・知多・三河地域将来推計人口

(人)

	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	30年-'05年
名古屋市	2,173,448	2,158,687	2,127,150	2,080,423	2,019,909	1,950,491	- 222,957
半田市	114,580	117,466	119,303	120,168	120,100	119,365	4,785
常滑市	49,183	47,816	46,039	43,887	41,442	38,866	- 10,317
東海市	99,022	97,260	94,675	91,211	86,908	82,181	- 16,841
大府市	76,653	77,650	78,250	78,220	77,460	76,105	- 548
知多市	82,301	83,410	83,690	83,035	81,387	78,976	- 3,325
阿久比町	24,012	23,816	23,413	22,766	21,867	20,804	- 3,208
東浦町	47,955	50,641	52,882	54,636	55,856	56,805	8,850
南知多町	21,571	19,783	17,905	16,037	14,218	12,474	- 9,097
美浜町	26,128	26,064	25,683	25,173	24,513	23,689	- 2,439
武豊町	41,681	43,174	44,295	44,944	44,997	44,649	2,968
知多地域合計	583,086	587,080	586,135	580,077	568,748	553,914	- 29,172
岡崎市	348,389	357,498	363,555	366,418	365,972	362,644	14,255
碧南市	68,120	67,861	66,960	65,510	63,614	61,331	- 6,789
刈谷市	137,399	141,805	145,466	148,325	150,197	151,237	13,838
安城市	167,209	174,537	180,605	185,304	188,633	191,018	23,809
西尾市	102,035	102,575	102,289	101,152	99,189	96,546	- 5,489
知立市	66,059	69,010	71,574	73,765	75,568	77,179	11,120
高浜市	40,074	41,843	43,384	44,733	45,922	47,030	6,956
一色町	23,687	22,861	21,855	20,703	19,409	18,035	- 5,652
吉良町	21,384	21,006	20,478	19,806	18,998	18,079	- 3,305
幡豆町	12,586	12,073	11,453	10,769	10,030	9,238	- 3,348
幸田町	33,818	34,090	34,132	33,931	33,410	32,616	- 1,202
額田町	9,236	8,986	8,678	8,328	7,931	7,459	- 1,777
西三河合計	1,029,996	1,054,145	1,070,429	1,078,744	1,078,873	1,072,412	42,416
豊橋市	374,352	381,227	385,069	385,951	383,734	379,020	4,668
豊川市	119,181	120,079	120,024	119,027	116,955	114,097	- 5,084
蒲郡市	79,862	76,998	73,435	69,299	64,727	59,983	- 19,879
田原町	38,015	38,858	39,395	39,651	39,652	39,365	1,350
赤羽根町	5,933	5,684	5,392	5,082	4,761	4,426	- 1,507
音羽町	8,135	8,405	8,610	8,656	8,547	8,342	207
一宮町	16,966	17,610	18,131	18,526	18,763	18,844	1,878
小坂井町	21,788	21,743	21,492	21,021	20,337	19,486	- 2,302
御津町	13,512	13,376	13,127	12,763	12,299	11,748	- 1,764
渥美町	21,481	20,429	19,265	18,019	16,743	15,411	- 6,070
東三河合計	699,225	704,409	703,940	697,995	686,518	670,722	- 28,503
愛知県合計	7,170,940	7,252,380	7,282,584	7,258,429	7,179,728	7,066,871	- 104,069

(出所) 人口推計は、(財)統計情報研究開発センター『市区町村別将来推計人口』2002年2月より高橋絢一作成。

東三河地域の場合は、2005年から2030年の間に、2万8千人の減少であるが、人口増加となるのは、豊橋市、田原町、音羽町、一宮町である。

3-2 高齢者数の中期予測

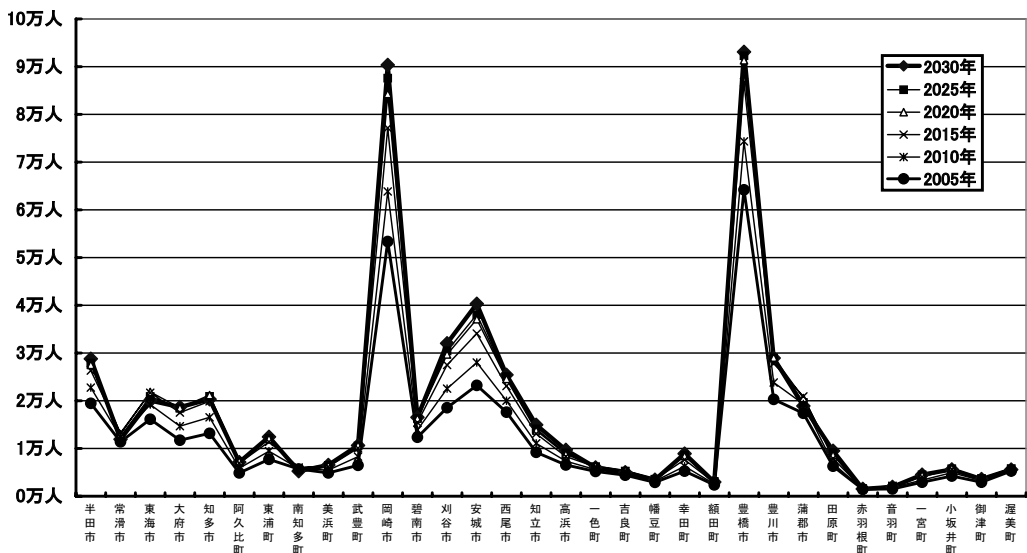
図3-1は、2005年から5年ごとの2030年までの、名古屋市を除く知多地域・西三河地域・東三河地域の市町別の65歳以上高齢者数の人口予測である。名古屋市を除いた理由は、名古屋市の高齢者人口が多すぎるために、この図に入れると他の市町の特徴が図示されないためである。

この図のように、豊橋市、岡崎市、安城市の高齢者数の増加が目立っている。しかし、2005年と2030年の高齢者数の増減をみると、自治体によって大きな格差がある。名古屋市が12万人増となるのは別格として、次は岡崎市の3.7万人、豊橋市の2.9万人、安城市の1.7万人であるが、南知多町のように高齢者が減少する自治体もある（数値データは[付属資料-4]を参照されたい）。

2005年と2030年間の高齢者数の市町別増減率でも、市町間に大きな格差がある。高齢者の増加率が第1位は安城市の73.6%、第2位は刈谷市の72.8%、第3位は幸田町の69.7%、第4位は岡崎市の69.3%など、50%以上の増加率の自治体は、武豊町、知立市、東浦町、大府市、知多市、一宮町、田原町である。その一方、この間の増減率がマイナス7.8%の南知多町、4.7%の常滑市、5.7%の渥美町、5.9%の赤羽根町、8.8%の蒲郡市のように10%以下の自治体もある。

以上のように、市町レベルで高齢者数の増減や増減率をみると、大変大きな格差がある。ただし、市町村レベルの人口予測は、転入・転出や地域の開発等の影響を大きく受けるために、予測の精度は全国人口の人口予測に比べて低いので、割り引いてイメージしていただきたい。

図3-1 知多・三河地域の高齢者の予測（2005年から2030年まで）



(出所) 高橋紘一作図，本文を参照されたい。

3-3 高齢化率の中期予測

図3-2は、名古屋市、知多、三河地域市町の2005年から2030年までの5年ごとの「高齢化率」の予測図である。

南知多町が2005年の26.4%から2030年には42.2%と最も「高齢化率」が高くなると予想される。しかし、高齢者の人数は減少することは前述した。額田町も2005年の25.7%から2030年には39.9%になるが、高齢者人口は2,372人から2,973人へ601人増えるだけである。

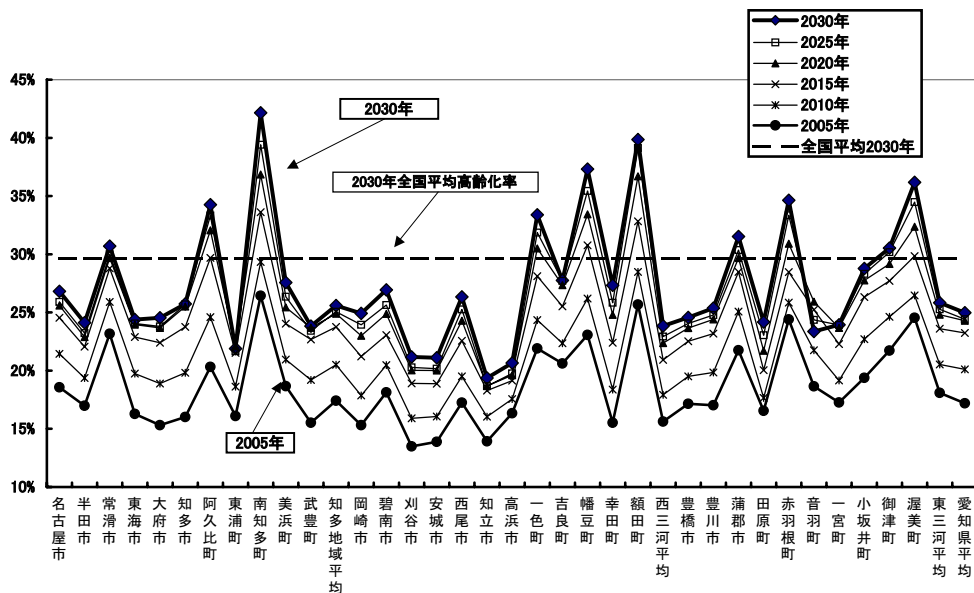
この他に、「高齢化率」が2030年の段階で30%を超えているのは、渥美町37.3%、赤羽根町34.6%、阿久比町34.3%、一色町33.4%、蒲郡市31.5%、常滑市30.7%、御津町30.5%、ちなみに美浜町は27.6%、半田市は24.1%である。

2005年と2030年の間で、もっとも高齢者が増える名古屋市の2030年の「高齢化率」は26.8%、次の岡崎市は24.9%、豊橋市は24.6%である。

2005年と2030年間で高齢者数の増加率が最も高い安城市の2030年の「高齢化率」は21.1%と、33市町中で低い方から3番目で、最も低いのは知立市の19.4%、次が高浜市の20.7%である。

以上のように、自治体の高齢化状況は、「高齢化率」だけで判断するのは危険であり、高齢者数そのもの、さらに、男女別・5歳階級別で分析することが重要である。

図3-2 名古屋、知多、三河地域の「高齢化率」予測



(出所) 高橋紘一作図, 本文を参照されたい。

3-4 痴呆性高齢者数の中期予測

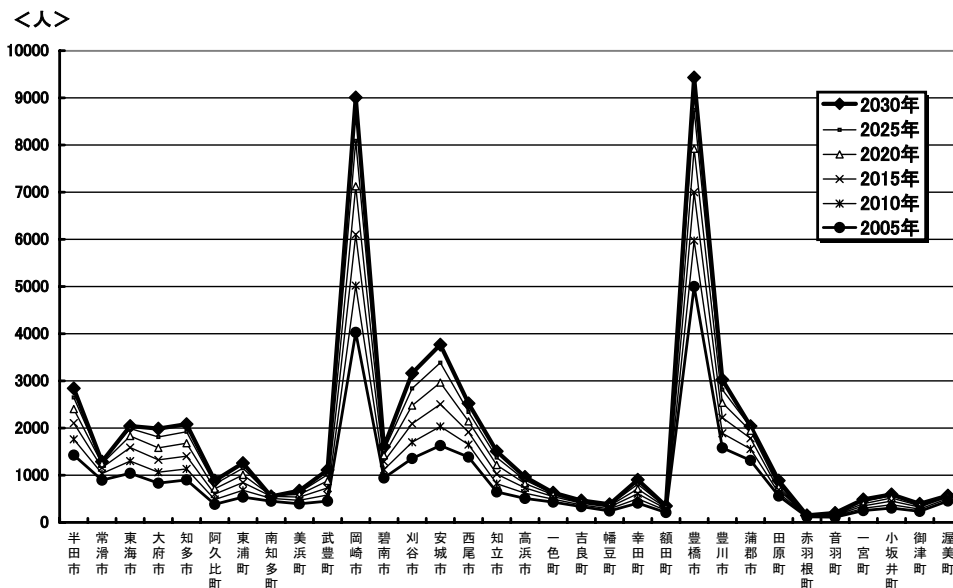
ここでは、愛知県、名古屋市、知多地域、西三河地域、東三河地域について、2005年から5年ごとに2030年までの男女別5歳階級別に痴呆性高齢者数の中期予測を行ってみたい。市町別の将来推計人口データは前章と同じ出所である。痴呆性高齢者の「出現率」は、前述のように、全国すべて同じであるとする限界をもっているが、筆者の方法を5年先の要介護高齢者数の推計をする「老人保健福祉計画」と比較した場合、痴呆性高齢者について中期の予測ができること、男女別5歳階級別に予測可能であるというメリットがある。

痴呆性高齢者数の予測方法は、2005年から5年ごとに2030年までの名古屋市など自治体ごとの65歳以上男女別5歳階級別推計人口に、『把握方法』の「出現率」を乗じて算出した数値を、名古屋市、知多地域・西三河地域・東三河地域ごとに合算し図にした。

まず、名古屋市を除く知多地域、西三河地域、東三河地域の2005年から2030年までの65歳以上痴呆性高齢者数を予測した図3-3をみていただきたい(数値データは、[付属資料-5]を参照されたい)。図の一番下の折れ線が2005年、一番上が2030年に設定してあるので、25年間の自治体ごとの動向がよくわかる。名古屋市を除いた理由は、名古屋市の人数が多すぎて、他の自治体の特徴がでないためである。

名古屋市の場合、65歳以上痴呆性高齢者は、2005年の約3万人から2030年には約5.5万人へと2.5万人増加するという見込みになった。他の自治体は、図のように、2005年から2030年間に約5千人、豊橋市が4.4千人、安城市が約2.1千人、痴呆性高齢者が増加するという見込みである。

図3-3 知多地域、西三河、東三河地域の痴呆性高齢者中期予測



(出所) 高橋紘一作図, 本文を参照されたい。

この25年間の増加率をみると、武豊町が146.4%、大府市が138.8%、東浦町が134.2%と大きいですが、絶対数の増加は少ない。田原町と合併し田原市になったが赤羽根町のように、この25年間で30人しか痴呆性高齢者が増加しない見込みという自治体もある。

次に、愛知県、名古屋市、知多地域、西三河地域、東三河地域別に、男女別5歳階級別痴呆性高齢者数を、2005年から5年ごとに2030年まで概観したい。

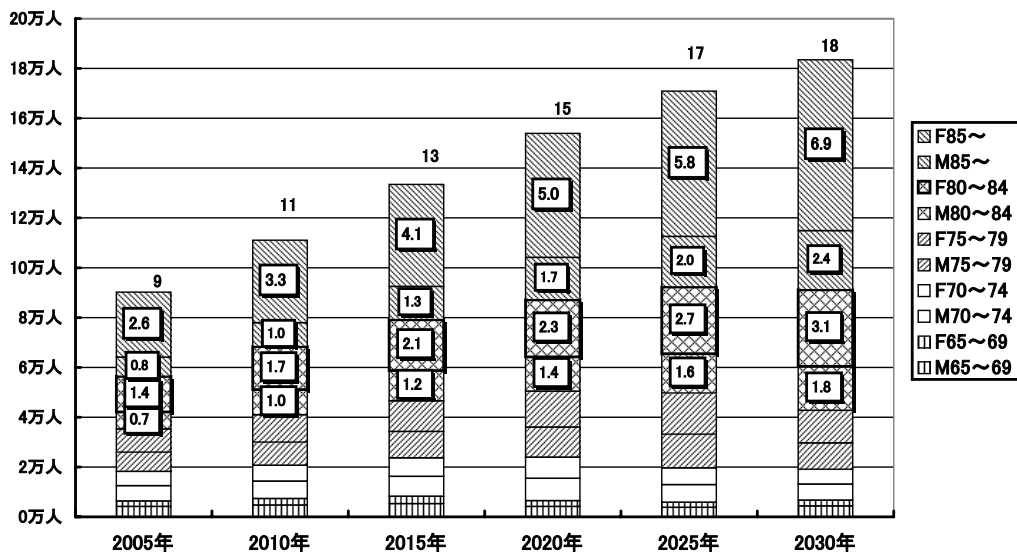
3-4-1 愛知県

愛知県の痴呆性高齢者数は、図3-4のように、2005年の9万人から2030年には18万人になるという予測結果になった。2005年段階では、65歳以上痴呆性高齢者総数に占める85歳以上の痴呆性高齢者の比率（以下「85歳以上率」とする）は38%であるが、2030年には50%と半数を超える。そのうち、女子の「85歳以上率」は、2005年の29%から2030年には37%に上昇する。

次に、65歳以上痴呆性高齢者総数に占める80歳以上の痴呆性高齢者の比率（以下「80歳以上率」とする）をみると、2005年には61%であるが、2030年には77%までになる。女子の「80歳以上率」は、2005年の45%から54%に上昇する。

さらに、65歳以上痴呆性高齢者総数に占める75歳以上の痴呆性高齢者の比率（以下「75歳以上率」とする）をみると、2005年には80%であるが、2030年には90%までになる。女子の「75歳以上率」は、2005年の55%から61%に上昇する。

図3-4 愛知県65歳以上男女別5歳階級別痴呆性高齢者の予測



(出所) 高橋紘一作図，本文を参照されたい。

3-4-2 名古屋市

名古屋市の痴呆性高齢者数は、図3-5のように、2005年の3万人から2030年には5.5万人になるという予測結果になった。2005年段階では、「85歳以上率」は37%であるが、2030年には52%と半数を超える。そのうち、女子の「85歳以上率」は、2005年の28%から2030年には38%に上昇する。

次に、「80歳以上率」をみると、2005年には61%であるが、2030年には77%までになる。女子の「80歳以上率」は、2005年の44%から54%に上昇する。

さらに、「75歳以上率」をみると、2005年には80%であるが、2030年には90%までになる。女子の「75歳以上率」は、2005年の55%から61%に上昇する。

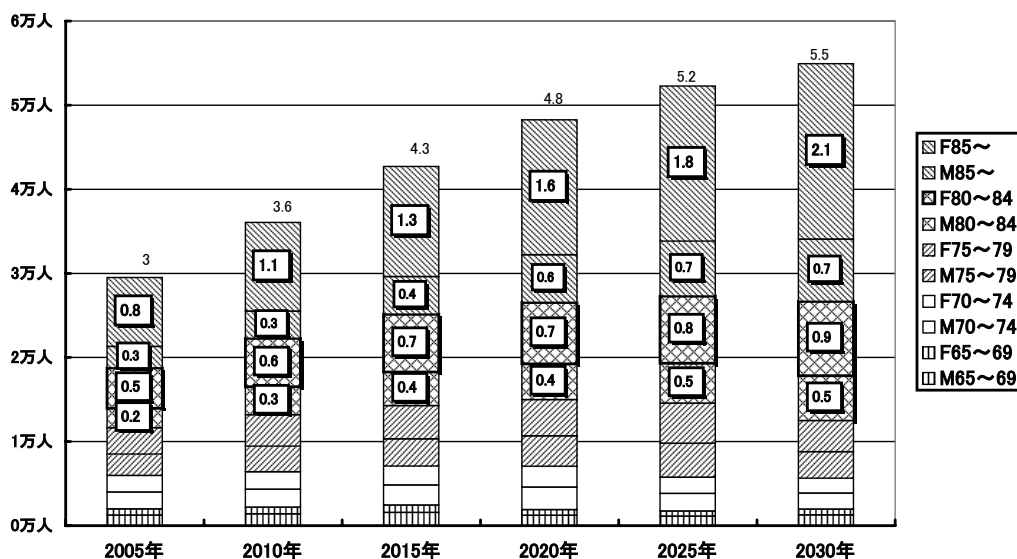
3-4-3 知多地域

以下の図は、前述のように、知多地域、西三河、東三河地域のすべての自治体について、2005年から5年ごとに2030年まで、男女別5歳階級別に痴呆性高齢者数の計算を行った上で、知多地域、西三河、東三河地域ごとに合計した数値を基にしている。

知多地域の痴呆性高齢者数は、図3-6のように、2005年の0.7万人から2030年には1.5万人になるという予測結果になった。2005年段階では、「85歳以上率」は36.9%であるが、2030年には49.9%と約半数になる。そのうち、女子の「85歳以上率」は、2005年の28.8%から2030年には37%に上昇する。

次に、「80歳以上率」をみると、2005年には60%であるが、2030年には77%までになる。女子の「80歳以上率」は、2005年の45%から54%に上昇する。

図3-5 名古屋市 65歳以上男女別5歳階級別痴呆性高齢者の予測



(出所) 高橋紘一作図，本文を参照されたい。

さらに、「75歳以上率」をみると、2005年には79%であるが、2030年には90%までになる。女子の「75歳以上率」は、2005年の55%から61%に上昇する。

3-4-4 西三河地域

西三河地域の痴呆性高齢者数は、図3-7のように、2005年の1.2万人から2030年には2.5万人になるという予測結果になった。2005年段階では、「85歳以上率」は38%であるが、2030年には48%と半数以下で、他の地域と異なる特徴となっている。そのうち、女子の「85歳以上率」は、2005年の30%から2030年には36%に上昇する。

次に、「80歳以上率」をみると、2005年には62%であるが、2030年には75%までになる。女子の「80歳以上率」は、2005年の46%から52%に上昇する。

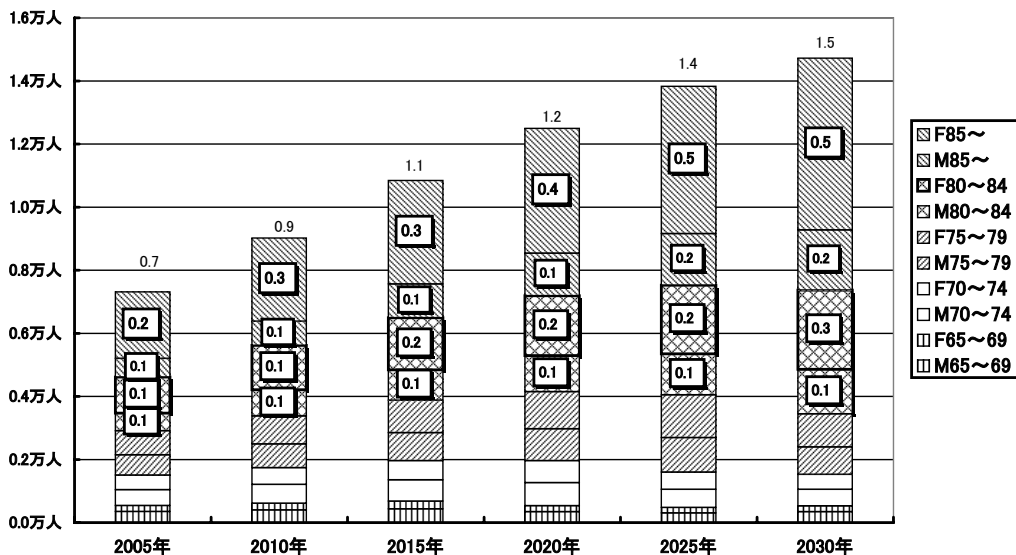
さらに、「75歳以上率」をみると、2005年には81%であるが、2030年には89%までになる。女子の「75歳以上率」は、2005年の56%から60%に上昇する。

3-4-5 東三河地域

東三河地域の痴呆性高齢者数は、図3-8のように、2005年の1万人から2030年には1.8万人になるという予測結果になった。2005年段階では、「85歳以上率」は40%であるが、2030年には49%と西三河と同じく半数以下である。そのうち、女子の「85歳以上率」は、2005年の31%から2030年には37%に上昇する。

次に、「80歳以上率」をみると、2005年には64%であるが、2030年には76%までになる。女子の「80歳以上率」は、2005年の47%から54%に上昇する。

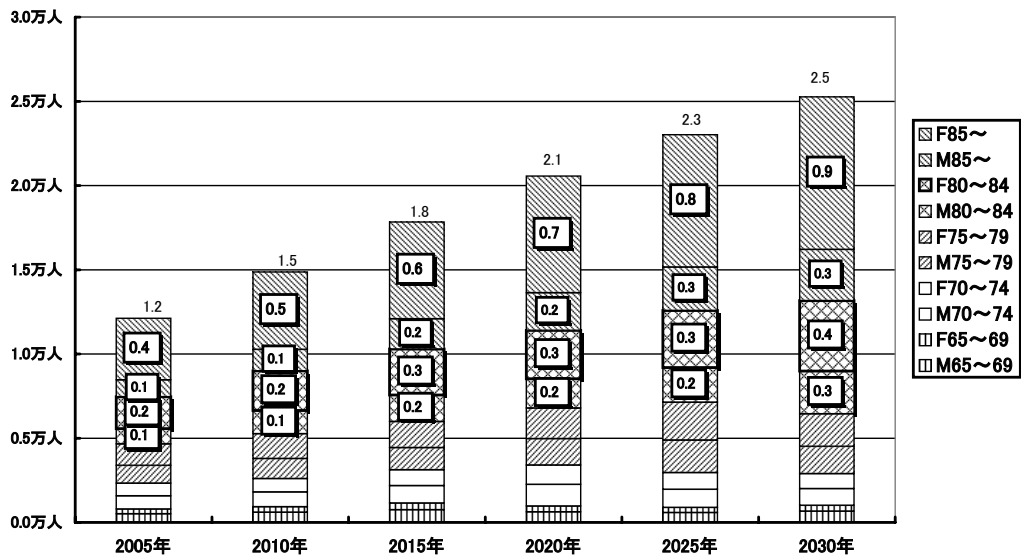
図3-6 知多地域 65歳以上男女別5歳階級別痴呆性高齢者の予測



(出所) 高橋紘一作図, 本文を参照されたい。

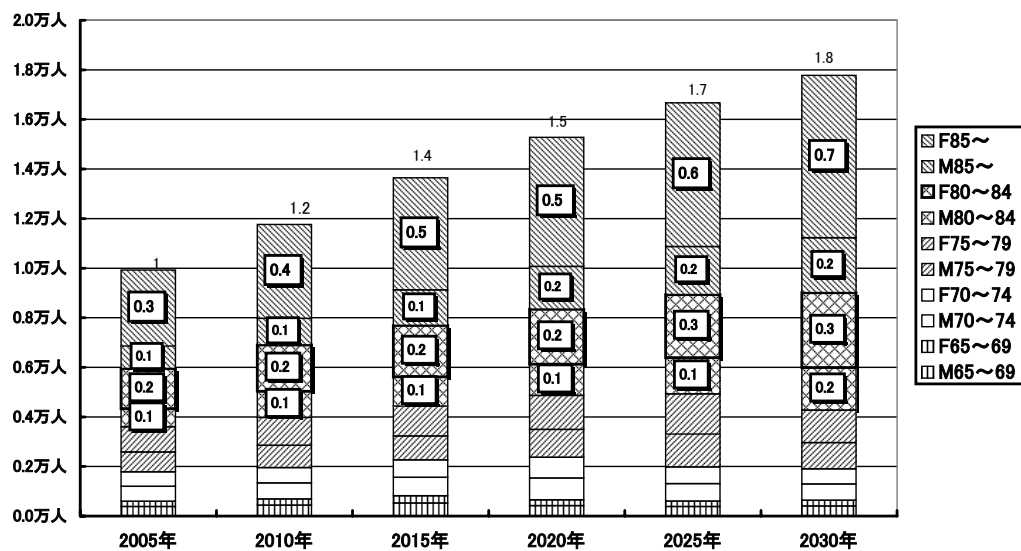
さらに、「75歳以上率」をみると、2005年には82%であるが、2030年には89%までになる。女子の「75歳以上率」は、2005年の58%から61%に上昇する。

図3-7 西三河65歳以上男女別5歳階級別痴呆性高齢者の予測



(出所) 高橋紘一作図，本文を参照されたい。

図3-8 東三河65歳以上男女別5歳階級別痴呆性高齢者の予測



(出所) 高橋紘一作図，本文を参照されたい。

3-5 1平方km当たり痴呆性高齢者数の予測

介護保険の実施主体は、基本的には市町村である。そこで、1平方km当たりの痴呆性高齢者数を2005年から5年ごとに2030年まで試算してみた。それが図3-9である。

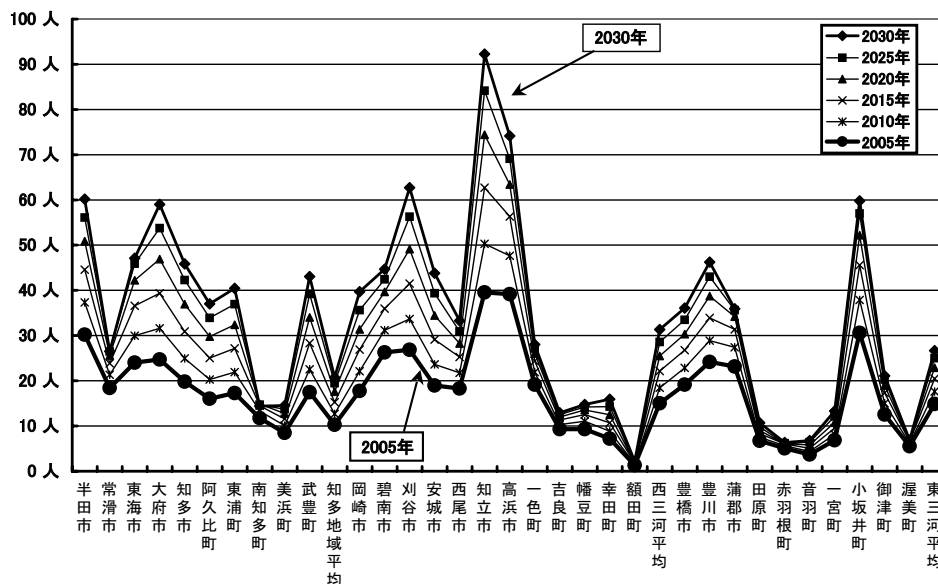
2005年の段階では、名古屋市が最も多く90.4人で、第2位が知立市の39.6人、第3位が高浜市の39.2人、第4位が小坂井町の30.6人、最も少ない順では、額田町の1.3人、音羽町の3.7人などである。地域ごとでは、西三河地域が15人、東三河地域が14.9人、知多地域が10.3人である。

2030年の段階では、名古屋市の1平方km当たり痴呆性高齢者数は168.3人と、2005年の86.1%増となるという試算結果となった。第2位はやはり知立市の92.3人で133.3%増、第3位が高浜市の74.2人で89.4%増、第4位が刈谷市の62.7人で133.3%増、最も少ない順では、額田町の2.2人で65.4%増、赤羽根町の6.3人25.5%増である。

2005年から2030年間の間の増加率が最も高いのは、武豊町で146.4%増、第2位が大府市の138.8%、第3位が東浦町の134.2%、最も低いのは、南知多町の22.7%、次が渥美町の25.2%などである。

1平方km当たりの痴呆性高齢者数が多い自治体ほど、居宅と居宅の距離が短いということであるから、介護サービス事業者の移動距離が短く効率的なサービスが可能な地域ということを意味する。そうであるならば、要介護高齢者数側からみると、施設サービスよりも在宅サービスを選択するひとつの条件といえるかもしれない。いわば、「地域の施設化」が可能な地域と考えることができるかもしれない。

図3-9 知多、三河地域の1平方キロメートル当たり痴呆性高齢者の予測



(出所) 高橋紘一作図, 本文を参照されたい。

逆に、1平方km当たり痴呆性高齢者数が少ない自治体の場合は、居宅サービスよりも施設サービスを充実した方がよい地域といえることができるかもしれない。

4 痴呆性高齢者に対する都道府県別福祉産業の需要予測

ここでは、痴呆性高齢者に関連する福祉産業への需要見込み、とくに、介護保険施設・グループホームについて、中期的な需要予測をしてみたい。

この場合の「福祉産業」は、民間企業だけでなく、非営利組織による事業、国・地方自治体などによる事業も含める。『日本標準産業分類』での産業の定義によると、特別養護老人ホームなど公務による事業も産業に含めているし、2002年の改訂版においては、L-サービス業から分離して、大分類「N-医療・福祉」を新設した。筆者は、「福祉産業とは現代的生活貧困を予防・救済するための福祉財および福祉サービスの生産・流通・販売あるいは提供にかかわるすべての事業所」と定義している¹⁷。

痴呆性高齢者への介護政策を展望した場合に、確かに『2015年の高齢者介護～高齢者の尊厳を支えるケアの確立に向けて～』の言うように、「施設への入所は最後の選択肢と考え、可能な限り住み慣れた環境の中でそれまでと変わらない生活を続け、最期までその人らしい人生を送ることができるようにすること」¹⁸は、すべての人の願いであるが、本論文の予測から言えることは、最後の選択肢である「施設への入所」を要する痴呆性高齢者が、大都市部において急増するということである。

そこで、都道府県別に、痴呆性高齢者への介護保険3施設およびグループホームの中期的な需要見込みを行ってみたい。この場合「需要」といっても、潜在的な需要見込みであり、介護保険3施設とグループホームの「合計の需要見込み」であることに注意されたい。なお、グループホームは周知のように、介護保険上は居宅サービスに分類されているが、自宅から離れて集散的に居住しているのであるから、準施設として位置づけた。

まず、[付属資料-6]の、「2002(平成14)年都道府県別介護保険3施設の定員、病床数およびグループホームの利用者数と2005年の80歳以上痴呆性高齢者、85歳以上痴呆性高齢者」を見ていただきたい。全国合計で、介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)は33万916床、介護老人保健施設は25万4,918床、介護療養型医療施設は13万7,968床、合計72万3,802床で、65歳以上人口に対する割合は3.1%である。グループホームの利用者は23万888人で、65歳以上人口に対する割合は0.1%である。介護保険3施設とグループホームの合計(これを「施設定員数等」とする)では、74万7,690床等になり、65歳以上人口に対する割合は3.16%である。

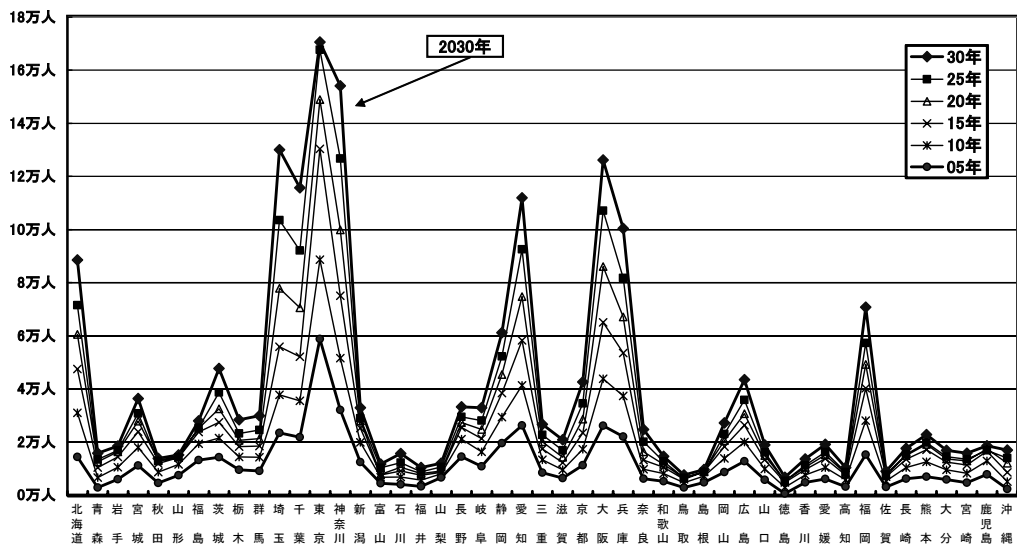
次に、この「施設定員数等」の、筆者が推計した2005年の80歳以上痴呆性高齢者数に対する割合をみると、全国平均では59.2%であるが、都道府県別にみると格差が大変大きく、徳島県の94.9%から、山梨県の44.3%までである。

さらに、85歳以上痴呆性高齢者数に対する「施設定員数等」の割合をみると、徳島県の153.3

%など100%以上の道府県が23になった。100%以上ということは、85歳以上痴呆性高齢者が全員入所して余りあるということである。一方、最もこの比率が低いのは東京都で72.6%である。

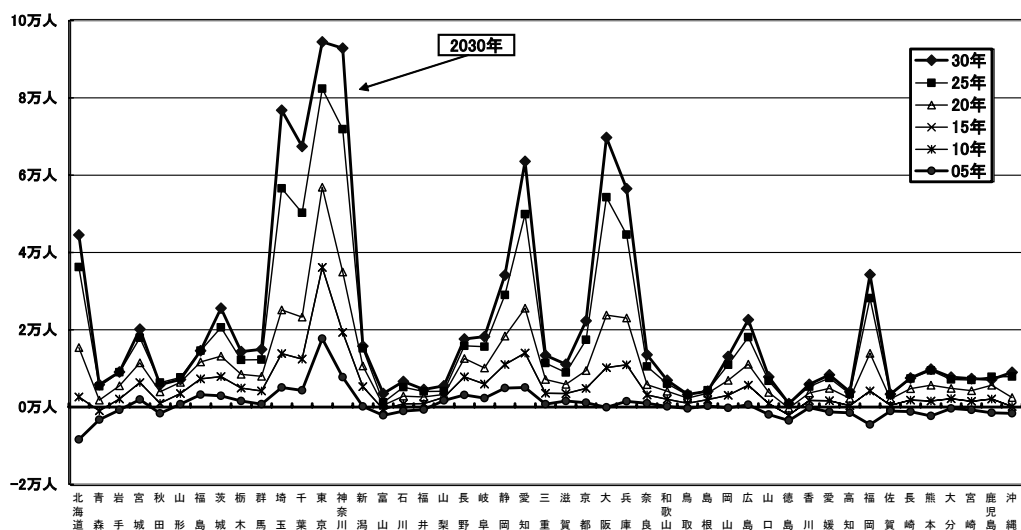
以上のような、2002年の状況を基点として、2005年から5年ごとに2030年までの介護保険3施設およびグループホーム合計の需要予測を行った。その方法は、超高齢者の痴呆性高齢者全員が介護保険3施設とグループホームに入所すると仮定した場合の人数から、2004年の「施設定

図4-1 80歳以上痴呆性高齢者に対する介護保険施設およびグループホームの需要予測



(出所) 高橋紘一作図，本文を参照されたい。

図4-2 85歳以上痴呆性高齢者に対する介護保険施設およびグループホームの需要予測



(出所) 高橋紘一作図，本文を参照されたい。

員数等」を差し引くという方法である。つまり、2005年以降に、どのくらい施設等が必要になるかという予測をしてみた。超高齢者としては、80歳以上痴呆性高齢者と85歳以上痴呆性高齢者の2グループについて予測を行った（都道府県別80歳以上痴呆性高齢者と85歳以上痴呆性高齢者の数値データは、[付属資料-7]、名古屋・知多・三河地域についての80歳以上および85歳以上の痴呆性高齢者の数値データは[付属資料-8]を参照されたい）。

その結果が、80歳以上については図4-1、85歳以上については図4-2である。前述の痴呆性高齢者数の将来予測に限界があるので、おおよその目安として理解していただきたい。しかし、今後介護保険施設あるいはグループホームの整備を急がなくてはならない地域は、東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県などの首都圏、愛知県、大阪府、兵庫県、広島県、福岡県、北海道であることは明らかであろう。

おわりに

この論文の目的は、まず、都道府県別および名古屋市・知多地域・三河地域の痴呆性高齢者数の中期予測を行うことである。その数値については、予測方法の限界について述べてあるとおりであり、痴呆性高齢者の出現数はおおよその目安にすぎないが、特徴としては、男女別・5歳階級別に、都道府県別および日本福祉大学近郊の市町別に予測したことである。

その結果として明らかになったことは、第1に、痴呆性高齢者数の出現数の自治体間格差が大変大きいということである。都道府県別に見ても首都圏、大阪府、愛知県、福岡県など大都市圏に集中するが、県内の市町村ごと、この論文では、名古屋市・知多地域・三河地域の市町ごとにも、格差が大変大きいということである。その格差のおおよその大きさをこの論文において明らかにできたと考えている。

第2に、80歳以上の痴呆性高齢者、なかでも女子痴呆性高齢者が増加していくということである。

第3に、この予測があてはまるとすると、ひとり暮らしの低所得の女子痴呆性高齢者が主として増加すると予想されるから、これらの要介護高齢者に対しては、在宅サービスよりも介護保険施設やグループホームに対する需要が高く、しかも大都市圏域における整備を急がなくてはならないということである。しかし、金子満雄氏の言うように、痴呆の主たる原因は生活環境因性のものだとすれば、痴呆性高齢者の生活環境の改善、介護予防の充実によって、大幅に痴呆性高齢者が減少し、在宅生活者が多くなることも考えられるし、そのようになることが望ましいことはいうまでもない。

【付属資料 - 1】 都道府県別将来推計人口 (万人)

	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	30年-05年	順位	増減率	順位
北海道	564	556	544	527	507	485	- 79	46	- 14.1%	32
青森	146	143	139	134	128	122	- 24	33	- 16.2%	40
岩手	140	138	135	131	128	123	- 17	23	- 12.1%	24
宮城	239	239	239	237	235	232	- 7	7	- 2.9%	7
秋田	115	111	106	100	94	88	- 28	39	- 24.1%	47
山形	122	119	115	110	105	100	- 22	31	- 18.3%	44
福島	210	206	201	194	187	179	- 32	40	- 15.0%	35
茨城	300	299	296	291	284	275	- 24	34	- 8.1%	15
栃木	201	200	198	194	189	182	- 19	27	- 9.3%	18
群馬	203	203	200	197	192	187	- 16	21	- 8.1%	14
埼玉	707	715	718	714	702	686	- 21	29	- 2.9%	8
千葉	602	609	614	619	630	662	60	1	9.9%	2
東京	1,225	1,233	1,233	1,224	1,207	1,184	- 41	44	- 3.3%	10
神奈川	868	882	891	894	893	889	22	3	2.5%	5
新潟	244	239	233	225	216	206	- 39	43	- 15.9%	38
富山	111	109	107	103	99	95	- 16	20	- 14.4%	33
石川	118	116	114	112	108	105	- 13	15	- 11.1%	20
福井	83	82	80	78	76	74	- 9	9	- 10.6%	19
山梨	89	89	88	87	85	83	- 6	6	- 6.8%	12
長野	222	221	218	215	210	204	- 18	26	- 8.1%	13
岐阜	210	208	204	199	193	185	- 25	36	- 11.8%	23
静岡	377	374	367	358	345	331	- 46	45	- 12.2%	25
愛知	717	725	728	726	718	707	- 10	10	- 1.5%	6
三重	186	185	183	179	175	169	- 17	24	- 9.2%	17
滋賀	139	144	147	151	153	154	15	4	10.8%	1
京都	264	263	261	258	254	248	- 16	19	- 6.1%	11
大阪	874	862	844	819	789	755	- 119	47	- 13.7%	31
兵庫	569	581	591	600	607	614	45	2	8.0%	4
奈良	145	144	143	141	137	132	- 12	14	- 8.5%	16
和歌山	105	103	100	96	92	88	- 17	22	- 16.0%	39
鳥取	61	60	59	57	55	53	- 7	8	- 12.3%	26
島根	75	73	71	68	66	63	- 12	12	- 15.6%	37
岡山	194	191	187	182	176	169	- 24	35	- 12.6%	27
広島	286	282	277	270	262	252	- 34	42	- 11.7%	22
山口	149	144	138	132	125	117	- 32	41	- 21.6%	46
徳島	81	79	77	74	71	67	- 14	16	- 17.0%	42
香川	101	99	97	94	90	86	- 15	17	- 14.7%	34
愛媛	147	144	139	134	128	122	- 25	37	- 17.0%	43
高知	81	79	77	75	73	70	- 11	11	- 13.6%	30
福岡	507	509	508	505	499	491	- 16	18	- 3.1%	9
佐賀	86	85	83	80	77	75	- 12	13	- 13.5%	29
長崎	148	144	138	133	126	120	- 28	38	- 18.8%	45
熊本	185	182	178	174	169	163	- 22	30	- 11.7%	21
大分	120	118	114	110	105	100	- 20	28	- 16.6%	41
宮崎	116	114	111	107	103	98	- 18	25	- 15.4%	36
鹿児島	177	173	170	165	160	154	- 22	32	- 12.7%	28
沖縄	136	140	143	145	146	147	11	5	8.3%	3
全国	12,744	12,716	12,605	12,419	12,170	11,894	- 851		- 6.7%	

(注1) 人口推計は、(財)統計情報研究開発センター『市区町村別将来推計人口』2002年2月より高橋紘一作成。

(注2) 群馬県および長野県のデータは、参考データを使用。

【付属資料 - 2】 都道府県別年齢3区分将来推計人口 (2005年～2030年)

(万人)

	年少人口						生産年齢人口						高齢者人口					
	05年	10年	15年	20年	25年	30年	05年	10年	15年	20年	25年	30年	05年	10年	15年	20年	25年	30年
北海道	73	68	63	60	55	51	275	291	307	329	356	372	160	161	161	151	133	119
青森	20	19	18	16	15	14	70	74	78	84	90	93	39	40	40	38	34	32
岩手	19	18	17	17	16	15	71	73	76	80	85	87	38	39	39	38	35	34
宮城	33	32	31	30	29	28	140	142	145	151	157	159	64	63	62	57	51	46
秋田	14	13	12	11	10	9	48	51	56	61	67	71	31	33	33	33	31	30
山形	17	16	15	14	13	12	56	59	63	68	72	75	32	33	33	32	31	30
福島	31	29	27	26	24	23	102	107	114	121	129	133	54	55	55	52	48	47
茨城	43	41	39	38	36	33	161	166	172	182	193	200	81	82	81	75	65	57
栃木	29	27	26	25	24	22	108	112	116	123	130	134	53	53	52	49	42	38
群馬	30	29	28	27	25	24	109	112	115	121	128	132	54	55	55	52	46	41
埼玉	100	98	95	92	87	82	417	428	435	449	474	492	188	187	186	173	143	114
千葉	82	81	80	82	86	99	393	376	371	379	399	415	170	168	167	155	129	105
東京	141	141	139	135	128	121	759	782	790	794	833	857	304	297	299	300	260	227
神奈川	119	120	119	117	114	111	554	560	560	566	587	604	225	219	217	206	176	145
新潟	34	32	30	28	27	25	117	123	129	138	148	153	64	66	67	65	60	57
富山	15	15	14	13	12	11	56	58	60	62	65	69	28	29	31	31	30	27
石川	17	16	16	15	14	13	61	63	65	68	73	77	30	31	31	30	27	24
福井	12	12	11	11	10	10	42	44	45	47	50	52	22	22	22	21	20	18
山梨	13	13	12	12	11	11	48	50	51	52	54	56	24	24	24	23	22	20
長野	32	32	31	30	28	27	119	122	124	129	135	139	59	60	60	59	55	51
岐阜	31	30	28	27	25	24	108	113	117	122	130	136	53	55	56	54	48	43
静岡	54	52	49	46	43	40	192	201	210	221	236	247	99	101	101	97	86	76
愛知	108	108	106	104	100	95	435	443	446	453	471	486	177	175	176	169	146	123
三重	27	26	25	24	23	21	99	103	105	110	116	120	49	49	50	48	43	39
滋賀	22	22	22	22	22	22	96	95	93	93	94	93	36	36	35	32	28	24
京都	35	34	33	33	31	30	150	153	155	159	169	177	68	69	71	69	60	53
大阪	122	120	115	110	102	95	462	483	496	517	555	593	198	204	214	212	187	159
兵庫	82	82	82	82	81	79	375	369	362	361	371	377	160	157	155	147	127	110
奈良	20	20	19	18	17	16	77	80	83	86	92	96	39	39	40	38	33	28
和歌山	15	14	13	13	12	11	50	52	55	58	62	66	27	28	29	29	26	25
鳥取	9	8	8	7	7	7	30	31	33	35	37	38	16	17	17	16	15	14
島根	10	10	9	9	8	8	36	37	38	40	43	45	20	21	21	21	20	20
岡山	28	27	26	25	24	22	98	102	105	110	118	123	49	51	52	51	47	43
広島	41	39	38	36	34	32	148	153	158	166	178	186	73	75	76	74	66	59
山口	20	18	17	16	15	13	65	69	73	79	87	93	38	41	43	42	39	37
徳島	11	10	10	9	8	8	39	40	43	46	49	51	21	22	22	22	20	19
香川	14	14	13	12	11	11	50	51	54	57	61	64	26	27	28	27	24	23
愛媛	20	19	18	17	16	14	69	72	76	81	88	92	39	40	41	40	37	35
高知	10	10	9	9	8	8	39	41	42	45	48	50	23	23	24	23	22	20
福岡	71	69	68	66	64	61	298	301	306	316	330	337	133	134	133	125	110	99
佐賀	13	13	12	11	11	10	42	44	46	49	52	54	22	23	23	21	20	19
長崎	22	20	19	18	16	15	66	70	75	81	88	92	39	40	40	38	35	34
熊本	27	25	24	23	22	20	92	96	100	106	112	115	51	52	51	49	45	43
大分	17	16	15	14	13	12	56	58	62	66	72	75	33	34	34	33	30	29
宮崎	18	17	16	15	14	13	53	56	60	64	69	71	32	33	33	31	28	27
鹿児島	25	24	22	21	20	19	87	91	96	101	107	108	48	49	48	46	43	43
沖縄	26	25	25	25	24	24	87	87	89	90	91	89	37	35	32	27	24	22
全国	1,768	1,721	1,665	1,610	1,538	1,469	7,102	7,284	7,449	7,716	8,149	8,445	3,323	3,349	3,361	3,224	2,845	2,531

(注1) 人口推計は、(助統計情報研究開発センター『市区町村別将来推計人口』2002年2月より高橋紘一作成。

(注2) 群馬県、長野県は参考データである。

【付属資料 - 3】 都道府県別 65 歳以上痴呆性高齢者の将来推計 [在宅 + 病院 + 施設]

(万人, %)

	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	順位	30年 - 05年	順位	増加率	順位
北海道	9.3	11.2	13.1	14.7	16.1	17.2	7	8.0	8	86.4%	9
青森	2.4	2.9	3.2	3.5	3.7	3.8	30	1.4	27	57.1%	23
岩手	2.7	3.1	3.5	3.7	3.9	3.9	29	1.3	29	46.6%	26
宮城	3.6	4.4	5.0	5.6	6.0	6.5	15	2.8	14	78.6%	12
秋田	2.4	2.8	3.1	3.2	3.3	3.3	35	0.8	38	34.7%	42
山形	2.5	2.9	3.1	3.2	3.2	3.2	36	0.7	40	27.9%	45
福島	3.8	4.4	4.8	5.0	5.2	5.4	21	1.6	26	41.1%	36
茨城	4.5	5.4	6.2	7.0	7.7	8.4	11	3.8	11	84.8%	11
栃木	3.1	3.6	4.1	4.5	4.9	5.3	22	2.2	17	71.1%	16
群馬	3.3	3.9	4.5	4.9	5.3	5.6	18	2.3	16	67.8%	18
埼玉	8.0	10.2	12.9	15.6	18.1	20.0	4	12.0	3	151.0%	1
千葉	7.6	9.6	11.9	14.3	16.4	18.1	6	10.5	4	139.5%	2
東京	17.1	20.9	26.1	28.0	29.1	29.1	1	12.1	2	70.8%	17
神奈川	10.4	13.1	16.2	19.2	21.8	23.8	2	13.4	1	129.4%	3
新潟	4.9	5.6	6.1	6.5	6.7	6.9	14	2.0	18	42.2%	33
富山	2.3	2.5	2.7	2.8	2.9	2.9	38	0.6	42	27.9%	46
石川	2.0	2.3	2.6	2.9	3.1	3.2	37	1.2	31	59.5%	22
福井	1.6	1.8	2.0	2.1	2.2	2.3	43	0.7	39	46.2%	27
山梨	1.7	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	42	0.6	44	34.0%	43
長野	4.4	5.1	5.6	5.9	6.1	6.3	16	1.9	22	42.0%	34
岐阜	3.4	4.1	4.6	5.1	5.4	5.7	17	2.3	15	66.6%	19
静岡	6.0	7.2	8.3	9.2	9.9	10.5	10	4.4	10	73.9%	15
愛知	9.0	11.1	13.3	15.4	17.1	18.3	5	9.3	6	103.4%	5
三重	3.1	3.7	4.2	4.5	4.8	5.0	23	1.9	20	60.4%	21
滋賀	2.0	2.3	2.7	3.0	3.3	3.6	32	1.7	24	85.2%	10
京都	4.3	5.0	5.8	6.5	7.1	7.5	13	3.2	12	76.1%	14
大阪	11.3	13.9	16.6	18.9	20.6	21.4	3	10.1	5	89.4%	8
兵庫	8.5	10.4	12.4	14.2	15.7	17.0	8	8.5	7	100.1%	6
奈良	2.2	2.6	3.1	3.5	3.9	4.2	27	2.0	19	91.9%	7
和歌山	2.0	2.3	2.6	2.7	2.9	2.9	39	0.9	36	43.7%	32
鳥取	1.3	1.4	1.6	1.6	1.7	1.7	47	0.5	46	37.6%	40
島根	1.8	2.0	2.1	2.2	2.2	2.2	46	0.4	47	23.2%	47
岡山	3.7	4.2	4.7	5.0	5.3	5.5	19	1.8	23	49.6%	25
広島	5.0	5.8	6.6	7.2	7.7	8.1	12	3.2	13	63.9%	20
山口	3.1	3.5	3.9	4.1	4.2	4.3	25	1.2	30	39.2%	37
徳島	1.6	1.8	2.0	2.1	2.1	2.2	45	0.6	45	36.2%	41
香川	2.0	2.2	2.5	2.6	2.7	2.8	40	0.9	37	44.2%	31
愛媛	2.9	3.3	3.7	3.9	4.1	4.2	26	1.3	28	44.3%	30
高知	1.8	2.0	2.2	2.3	2.4	2.5	41	0.7	41	38.9%	38
福岡	8.0	9.5	10.9	12.1	13.2	14.1	9	6.1	9	76.5%	13
佐賀	1.6	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	44	0.6	43	38.5%	39
長崎	2.9	3.3	3.6	3.8	3.9	4.0	28	1.2	32	41.4%	35
熊本	3.7	4.3	4.7	5.0	5.2	5.4	20	1.7	25	44.9%	29
大分	2.4	2.8	3.1	3.3	3.4	3.5	33	1.1	35	45.8%	28
宮崎	2.2	2.6	2.9	3.1	3.2	3.4	34	1.2	33	53.2%	24
鹿児島	3.7	4.1	4.5	4.6	4.7	4.8	24	1.1	34	30.8%	44
沖縄	1.8	2.2	2.5	2.9	3.3	3.7	31	1.9	21	103.4%	4
全国	198.8	237.0	275.7	305.6	329.9	348.6		149.8		75.4%	

(注1) 高橋統一が推計・作表。

(注2) 出現率は旧厚生省「老人保健福祉計画策定に当たったの痴呆性老人の把握方法等について」、1992年。

(注3) 人口推計は、(財)統計情報研究開発センター「市区町村別将来推計人口」2002年2月。

(注4) 群馬県、長野県は参考データを使用。

【付属資料 - 4】 名古屋市，知多・三河地域 年齢3区分将来推計人口（2005年～2030年）

(千人)

	年少人口						生産年齢人口						高齢者人口					
	05年	10年	15年	20年	25年	30年	05年	10年	15年	20年	25年	30年	05年	10年	15年	20年	25年	30年
名古屋市	295	289	279	267	251	235	1,474	1,407	1,326	1,281	1,246	1,193	404	463	522	533	523	523
半田市	19	19	19	19	18	18	76	75	74	74	74	73	19	23	26	28	28	29
常滑市	7.1	6.8	6.4	5.9	5.4	5.0	31	29	26	25	24	22	11	12	13	13	12	12
東海市	15	15	14	13	12	11	68	63	59	56	54	51	16	19	22	22	21	20
大府市	12	12	12	12	12	11	53	51	48	48	47	46	12	15	18	19	18	19
知多市	12	13	12	12	11	10	57	54	52	50	49	48	13	17	20	21	21	20
阿久比町	3.3	3.2	3.0	2.8	2.6	2.4	16	15	13	13	12	11	4.9	5.9	7.0	7.3	7.3	7.1
東浦町	8.2	8.5	8.8	9.0	8.9	8.8	32	33	33	34	35	36	7.7	9.4	11.4	12.1	12.1	12.4
南知多町	2.7	2.3	1.9	1.6	1.3	1.1	13	12	10	8.5	7.3	6.1	5.7	5.8	6.0	5.9	5.6	5.3
美浜町	3.7	3.6	3.4	3.2	3.0	2.8	18	17	16	16	15	14	4.9	5.5	6.2	6.4	6.5	6.5
武豊町	6.7	7.1	7.0	6.9	6.6	6.3	29	28	27	27	28	28	6.5	8.3	10.0	10.6	10.5	10.6
知多地域計	91	91	88	85	81	76	391	376	359	350	345	336	102	120	139	144	143	142
岡崎市	56	56	55	54	52	50	239	238	231	228	226	222	53	64	77	84	88	90
碧南市	11	10	10	9.1	8.5	7.9	45	44	42	40	39	37	12	14	15	16	16	17
刈谷市	23	24	24	24	23	23	96	96	94	95	96	96	19	23	27	30	30	32
安城市	29	31	32	32	31	31	114	116	115	117	119	120	23	28	34	37	38	40
西尾市	17	16	16	15	14	13	68	66	64	61	60	58	18	20	23	25	25	25
知立市	11	12	12	12	12	12	46	46	46	48	49	50	9.2	11.1	13.1	13.8	14.1	15.0
高浜市	7.1	7.4	7.7	7.8	7.9	7.9	26	27	27	28	29	29	6.5	7.3	8.3	8.8	9.1	9.7
一色町	3.5	3.2	2.9	2.7	2.4	2.1	15	14	13	12	11	10	5.2	5.6	6.1	6.3	6.2	6.0
吉良町	3.1	3.0	2.8	2.7	2.5	2.3	14	13	12	12	11	11	4.4	4.7	5.2	5.4	5.3	5.0
幡豆町	1.7	1.5	1.4	1.2	1.1	1.0	8.0	7.4	6.5	5.9	5.4	4.8	2.9	3.2	3.5	3.6	3.6	3.4
幸田町	5.4	5.2	5.1	5.0	4.8	4.5	23	23	21	21	20	19	5.3	6.3	7.6	8.4	8.6	8.9
額田町	1.1	0.9	0.9	0.8	0.7	0.6	5.8	5.5	5.0	4.5	4.1	3.9	2.4	2.6	2.8	3.1	3.1	3.0
西三河計	169	170	169	166	161	155	701	695	678	671	671	662	161	189	224	241	247	256
豊橋市	59	59	58	57	55	53	251	248	240	237	236	233	64	74	87	91	92	93
豊川市	19	19	18	18	17	16	80	78	74	72	71	69	20	24	28	29	29	29
蒲郡市	11	11	10	8.9	8.0	7.2	51	47	43	40	37	34	17	19	21	21	20	19
田原町	5.9	5.6	5.4	5.2	5.0	4.7	26	26	26	26	26	25	6.3	6.9	7.9	8.6	9.1	9.5
赤羽根町	0.8	0.8	0.7	0.6	0.6	0.5	3.6	3.5	3.2	2.9	2.6	2.4	1.4	1.5	1.5	1.6	1.6	1.5
音羽町	1.2	1.3	1.3	1.3	1.2	1.1	5.5	5.3	5.2	5.1	5.2	5.3	1.5	1.8	2.2	2.2	2.1	1.9
一宮町	2.6	2.6	2.7	2.7	2.7	2.6	11	12	11	11	12	12	2.9	3.4	4.0	4.4	4.5	4.5
小坂井町	3.1	3.0	2.9	2.7	2.5	2.3	14	14	13	12	12	12	4.2	4.9	5.7	5.8	5.8	5.6
御津町	1.9	1.9	1.8	1.7	1.6	1.4	8.7	8.2	7.7	7.4	7.0	6.7	2.9	3.3	3.6	3.7	3.7	3.6
渥美町	3.0	2.7	2.5	2.2	2.0	1.8	13	12	11	10	9.0	8.1	5.3	5.4	5.7	5.8	5.8	5.6
東三河計	108	106	104	101	96	91	465	453	434	424	417	407	126	145	166	173	173	173
愛知県合計	1,078	1,081	1,062	1,038	996	951	4,860	4,713	4,528	4,457	4,431	4,351	1,233	1,458	1,692	1,763	1,753	1,765

(注) ①統計情報研究開発センター 『市区町村別将来推計人口』2002年2月より高橋紘一作成。

【付属資料 - 5】 名古屋市, 知多・三河地域 男女別痴呆性高齢者の将来予測 (2005年～2030年)

(人)

	男子痴呆性高齢者						女子痴呆性高齢者						痴呆性高齢者合計					
	05年	10年	15年	20年	25年	30年	05年	10年	15年	20年	25年	30年	05年	10年	15年	20年	25年	30年
名古屋市	10,674	13,156	15,662	17,442	18,531	19,063	18,843	22,895	27,062	30,822	33,752	35,867	29,517	36,051	42,724	48,264	52,284	54,930
半田市	497	627	761	865	940	988	929	1,135	1,344	1,537	1,708	1,854	1,426	1,762	2,105	2,402	2,649	2,842
常滑市	307	360	406	431	439	434	588	676	754	814	847	854	896	1,036	1,160	1,245	1,286	1,288
東海市	409	520	628	701	732	727	633	780	958	1,131	1,257	1,316	1,042	1,300	1,586	1,832	1,990	2,043
大府市	315	409	510	594	655	689	518	656	816	986	1,156	1,299	833	1,065	1,326	1,580	1,811	1,988
知多市	348	455	570	670	738	759	553	679	834	1,009	1,184	1,324	901	1,134	1,404	1,679	1,921	2,083
阿久比町	123	156	190	217	232	235	261	330	409	496	580	652	384	485	599	713	812	887
東浦町	196	256	322	373	406	424	341	425	523	634	742	834	537	682	845	1,007	1,148	1,257
南知多町	148	163	173	173	170	165	302	347	381	395	393	387	449	510	553	569	563	551
美浜町	137	165	192	210	224	234	257	303	345	382	411	439	394	468	537	592	636	673
武豊町	161	218	279	332	371	390	290	364	452	546	641	721	451	582	731	878	1,012	1,111
知多地域	2,641	3,328	4,031	4,567	4,909	5,045	4,671	5,694	6,816	7,928	8,919	9,678	7,312	9,023	10,847	12,496	13,828	14,723
岡崎市	1,405	1,787	2,217	2,592	2,912	3,157	2,624	3,233	3,886	4,533	5,176	5,851	4,028	5,020	6,103	7,125	8,088	9,008
碧南市	333	403	470	520	559	592	609	716	820	902	963	1,011	942	1,118	1,290	1,422	1,522	1,603
刈谷市	488	624	780	915	1,027	1,118	868	1,074	1,312	1,562	1,813	2,045	1,356	1,698	2,092	2,477	2,840	3,163
安城市	607	773	963	1,124	1,256	1,367	1,022	1,261	1,542	1,841	2,130	2,401	1,630	2,034	2,505	2,964	3,385	3,768
西尾市	466	566	670	750	818	872	919	1,083	1,245	1,392	1,525	1,652	1,385	1,649	1,915	2,142	2,343	2,523
知立市	238	308	381	439	478	507	408	514	643	777	897	1,001	646	822	1,024	1,216	1,375	1,508
高浜市	167	201	236	261	283	304	342	418	496	563	615	660	509	620	732	824	898	964
一色町	142	165	186	199	207	213	289	328	362	387	403	418	431	493	548	586	610	630
吉良町	115	129	142	152	159	160	219	242	265	280	291	305	334	371	408	432	450	465
幡豆町	83	99	113	122	128	132	159	189	213	231	242	252	242	288	326	353	370	384
幸田町	142	176	218	254	287	312	266	326	390	455	523	592	409	502	607	709	810	904
額田町	69	82	92	99	105	110	141	172	198	214	225	238	210	254	291	313	330	348
西三河	4,256	5,314	6,468	7,427	8,218	8,844	7,866	9,555	11,373	13,135	14,803	16,423	12,122	14,869	17,841	20,562	23,021	25,268
豊橋市	1,713	2,080	2,481	2,796	3,039	3,195	3,288	3,894	4,518	5,124	5,704	6,237	5,001	5,974	6,999	7,920	8,743	9,431
豊川市	556	684	823	932	1,010	1,055	1,025	1,206	1,397	1,603	1,805	1,971	1,581	1,890	2,220	2,536	2,815	3,025
蒲郡市	454	545	625	667	678	667	861	1,011	1,157	1,275	1,345	1,373	1,315	1,556	1,782	1,942	2,023	2,041
田原町	182	203	230	257	288	319	377	421	460	489	520	567	559	624	690	746	809	886
赤羽根町	42	47	49	49	50	51	77	86	93	95	96	98	119	132	142	144	146	149
音羽町	37	45	54	62	66	65	73	84	95	110	125	136	110	129	150	171	191	200
一宮町	84	100	118	134	149	159	166	199	231	261	295	328	250	299	349	395	443	487
小坂井町	113	142	173	195	209	215	191	233	279	323	356	378	304	376	452	518	565	593
御津町	82	96	109	118	125	126	153	186	215	237	255	269	235	282	324	355	380	395
渥美町	156	170	181	186	190	195	298	334	358	366	368	373	454	504	540	552	559	568
東三河	3,419	4,112	4,844	5,397	5,804	6,047	6,508	7,654	8,803	9,882	10,870	11,729	9,926	11,766	13,648	15,279	16,674	17,776
愛知県	32,439	40,642	49,284	55,943	60,400	62,741	57,754	70,387	84,198	97,970	110,481	120,704	90,193	111,029	133,482	153,914	170,880	183,445

(注1) 出現率は旧厚生省「老人保健福祉計画策定に当たっての痴呆性老人の把握方法等について」、1992。

(注2) 人口推計は、(財)統計情報研究開発センター「市区町村別将来推計人口」、2002年2月。

【付属資料 - 6】 都道府県別、介護保険施設、グループホームの定員等と 80 歳以上および 85 歳以上痴呆性高齢者数の比較

	65歳以上 (1,000人)	介護保険施設 (人)						グループホーム			介護施設 + GH			2005 年			2005 年		
		特養	老健	療養型	定員・病 床数合計	定員率	順位	利用者 数	利用率	順位	利用者 数	利用率	順位	80歳以上痴 呆性高齢者数	施設 等率	順位	85歳以上痴 呆性高齢者数	施設 等率	順位
北海道	1,110	17,640	12,181	12,409	42,230	3.8%	13	1,724	0.16%	12	43,954	3.96%	13	58,295	75.4%	4	35,522	123.7%	4
青森	306	4,817	4,864	1,229	10,910	3.6%	17	1,078	0.35%	1	11,988	3.92%	14	14,793	81.0%	2	8,719	137.5%	2
岩手	321	5,166	4,809	971	10,946	3.4%	25	274	0.09%	27	11,220	3.50%	25	17,138	65.5%	19	10,466	107.2%	18
宮城	436	5,480	5,000	634	11,114	2.5%	41	413	0.09%	24	11,527	2.64%	40	22,687	50.8%	39	13,488	85.5%	35
秋田	295	5,037	4,332	1,071	10,440	3.5%	19	307	0.10%	21	10,747	3.64%	21	15,314	70.2%	12	9,116	117.9%	7
山形	297	5,256	2,891	516	8,663	2.9%	31	327	0.11%	20	8,990	3.03%	32	16,446	54.7%	33	9,740	92.3%	32
福島	453	5,364	4,680	927	10,971	2.4%	44	218	0.05%	43	11,189	2.47%	44	24,351	45.9%	45	14,414	77.6%	45
茨城	527	6,343	6,142	1,735	14,220	2.7%	37	588	0.11%	19	14,808	2.81%	36	29,003	51.1%	37	17,734	83.5%	38
栃木	365	4,408	4,362	1,085	9,855	2.7%	36	263	0.07%	35	10,118	2.77%	37	19,557	51.7%	36	11,705	86.4%	34
群馬	391	5,137	4,755	1,503	11,395	2.9%	32	1,136	0.29%	3	12,531	3.20%	28	21,615	58.0%	30	13,283	94.3%	29
埼玉	996	10,751	8,440	3,980	23,171	2.3%	45	946	0.09%	23	24,117	2.42%	45	47,468	50.8%	40	29,163	82.7%	40
千葉	932	10,117	9,545	3,763	23,425	2.5%	42	646	0.07%	36	24,071	2.58%	42	45,861	52.5%	34	28,364	84.9%	37
東京	2,085	29,929	9,831	6,756	46,516	2.2%	47	497	0.02%	47	47,013	2.25%	47	105,770	44.4%	46	64,732	72.6%	47
神奈川	1,299	14,424	10,233	4,855	29,512	2.3%	46	833	0.06%	38	30,345	2.34%	46	62,346	48.7%	44	38,078	79.7%	43
新潟	554	8,656	7,857	2,798	19,311	3.5%	23	343	0.06%	40	19,654	3.55%	23	32,070	61.3%	25	19,784	99.3%	24
富山	247	4,068	3,773	2,909	10,750	4.4%	4	193	0.08%	31	10,943	4.43%	4	15,405	71.0%	9	8,810	124.2%	3
石川	232	3,898	3,340	1,886	9,124	3.9%	10	428	0.18%	8	9,552	4.12%	8	13,533	70.6%	11	8,475	112.7%	12
福井	179	3,270	2,703	1,201	7,174	4.0%	7	68	0.04%	45	7,242	4.05%	10	10,450	69.3%	13	6,566	110.3%	14
山梨	182	2,383	2,240	538	5,161	2.8%	35	65	0.04%	46	5,226	2.87%	35	11,798	44.3%	47	6,901	75.7%	46
長野	497	7,465	5,464	1,721	14,650	2.9%	30	449	0.09%	25	15,099	3.04%	31	29,579	51.0%	38	18,235	82.8%	39
岐阜	408	4,672	4,837	1,149	10,658	2.6%	39	347	0.09%	28	11,005	2.70%	39	21,770	50.6%	41	13,340	82.5%	41
静岡	714	8,300	6,433	3,560	18,293	2.6%	40	320	0.04%	44	18,613	2.61%	41	38,187	48.7%	43	23,540	79.1%	44
愛知	1,117	11,855	11,121	5,054	28,030	2.5%	43	704	0.06%	39	28,734	2.57%	43	54,933	52.3%	35	33,783	85.1%	36
三重	373	5,068	4,692	1,433	11,193	3.0%	29	284	0.08%	33	11,477	3.08%	30	19,837	57.9%	31	12,233	93.8%	30
滋賀	231	3,035	1,910	1,115	6,060	2.6%	38	173	0.07%	34	6,233	2.70%	38	12,586	49.5%	42	7,804	79.9%	42
京都	495	7,042	4,754	4,357	16,153	3.3%	27	383	0.08%	32	16,536	3.34%	27	27,710	59.7%	28	17,673	93.6%	31
大阪	1,442	18,795	13,135	8,968	40,898	2.8%	34	890	0.06%	41	41,788	2.90%	34	67,842	61.6%	24	41,741	100.1%	23
兵庫	1,013	14,955	9,760	6,054	30,769	3.0%	28	792	0.08%	30	31,561	3.12%	29	53,574	58.9%	29	33,063	95.5%	28
奈良	258	4,263	2,252	892	7,407	2.9%	33	218	0.08%	29	7,625	2.96%	33	13,801	55.2%	32	8,563	89.0%	33
和歌山	237	3,771	2,999	1,020	7,790	3.3%	26	281	0.12%	17	8,071	3.41%	26	13,290	60.7%	26	8,192	98.5%	25
鳥取	140	2,557	2,237	719	5,513	3.9%	9	208	0.15%	13	5,721	4.09%	9	8,536	67.0%	18	5,342	107.1%	19
島根	198	3,875	1,795	1,309	6,979	3.5%	20	279	0.14%	14	7,258	3.67%	19	12,026	60.4%	27	7,530	96.4%	27
岡山	415	6,835	5,568	2,457	14,860	3.6%	15	785	0.19%	7	15,645	3.77%	18	24,312	64.3%	20	15,457	101.2%	22
広島	565	8,616	6,812	4,470	19,898	3.5%	21	507	0.09%	26	20,405	3.61%	22	33,121	61.6%	23	20,994	97.2%	26
山口	357	5,596	3,980	4,634	14,210	4.0%	8	607	0.17%	10	14,817	4.15%	7	20,567	72.0%	8	12,905	114.8%	9
徳島	189	3,098	4,025	2,529	9,652	5.1%	1	366	0.19%	5	10,018	5.30%	1	10,556	94.9%	1	6,535	153.3%	1
香川	226	3,553	2,991	1,459	8,003	3.5%	18	275	0.12%	16	8,278	3.66%	20	13,052	63.4%	21	8,149	101.6%	21
愛媛	336	4,760	4,752	2,972	12,484	3.7%	14	614	0.18%	9	13,098	3.90%	15	19,154	68.4%	14	11,815	110.9%	13
高知	199	3,284	2,004	3,599	8,887	4.5%	3	133	0.07%	37	9,020	4.53%	3	12,109	74.5%	5	7,566	119.2%	6
福岡	927	13,145	13,141	9,221	35,507	3.8%	11	1,248	0.13%	15	36,755	3.96%	12	51,923	70.8%	10	32,253	114.0%	11
佐賀	188	2,941	2,793	1,842	7,576	4.0%	6	304	0.16%	11	7,880	4.19%	6	10,922	72.1%	6	6,830	115.4%	8
長崎	331	5,127	4,225	2,219	11,571	3.5%	22	1,143	0.35%	2	12,714	3.84%	16	18,835	67.5%	17	11,530	110.3%	15
熊本	417	6,489	5,730	5,254	17,473	4.2%	5	467	0.11%	18	17,940	4.30%	5	24,893	72.1%	7	15,648	114.6%	10
大分	280	4,213	3,650	1,798	9,661	3.5%	24	272	0.10%	22	9,933	3.55%	24	15,743	63.1%	22	9,584	103.6%	20
宮崎	256	3,873	2,955	2,328	9,156	3.6%	16	561	0.22%	4	9,717	3.80%	17	14,367	67.6%	16	8,965	108.4%	17
鹿児島	419	7,531	5,193	3,263	15,987	3.8%	12	811	0.19%	6	16,798	4.01%	11	24,615	68.2%	15	15,301	109.8%	16
沖縄	201	4,058	3,732	1,806	9,596	4.8%	2	120	0.06%	42	9,716	4.83%	2	12,010	80.9%	3	8,109	119.8%	5
全国	23,628	330,916	254,918	137,968	723,802	3.1%		23,888	0.10%		747,690	3.16%		1,263,750	59.2%		777,740	96.1%	

(注 1) 高橋統一作表。

(注 2) 施設、グループホームのデータは、『平成 14 年介護サービス施設・事業所調査』
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/kaigo/service00/kekka4.html> 040621

(注 3) 65 歳以上人口は総務省統計局「平成 14 年 10 月 1 日現在推計人口」による。

(注 4) 痴呆性高齢者数については、本文を参照されたい。

【付属資料 - 7】 都道府県別 80 歳以上及び 85 歳以上痴呆性高齢者の推移予測

(万人)

	80 歳以上痴呆性高齢者						85 歳以上痴呆性高齢者					
	05 年	10 年	15 年	20 年	25 年	30 年	05 年	10 年	15 年	20 年	25 年	30 年
北海道	5.8	7.5	9.1	10.4	11.5	13.2	3.6	4.7	5.9	7.1	8.0	8.9
青森	1.5	1.9	2.2	2.5	2.5	2.8	0.9	1.1	1.4	1.6	1.7	1.8
岩手	1.7	2.2	2.6	2.8	2.8	3.0	1.0	1.3	1.7	1.9	2.0	2.0
宮城	2.3	2.9	3.5	3.9	4.2	4.8	1.3	1.8	2.3	2.7	2.9	3.2
秋田	1.5	1.9	2.3	2.4	2.4	2.5	0.9	1.2	1.5	1.7	1.7	1.7
山形	1.6	2.0	2.3	2.4	2.3	2.4	1.0	1.2	1.5	1.7	1.7	1.6
福島	2.4	3.0	3.5	3.6	3.7	3.9	1.4	1.8	2.3	2.5	2.6	2.6
茨城	2.9	3.6	4.2	4.7	5.3	6.2	1.8	2.3	2.8	3.2	3.5	4.0
栃木	2.0	2.4	2.8	3.1	3.3	3.9	1.2	1.5	1.9	2.1	2.2	2.4
群馬	2.2	2.7	3.1	3.4	3.7	4.2	1.3	1.7	2.0	2.3	2.5	2.8
埼玉	4.7	6.2	8.0	10.2	12.8	15.4	2.9	3.8	4.9	6.3	8.1	10.1
千葉	4.6	6.0	7.6	9.5	11.6	14.0	2.8	3.7	4.7	6.0	7.4	9.2
東京	10.6	13.6	17.7	19.6	21.5	21.8	6.5	8.3	10.4	11.7	12.9	14.2
神奈川	6.2	8.2	10.5	13.0	15.7	18.4	3.8	5.0	6.5	8.4	10.2	12.3
新潟	3.2	3.9	4.5	4.8	4.9	5.3	2.0	2.5	3.0	3.4	3.5	3.5
富山	1.5	1.8	1.8	1.9	2.1	2.3	0.9	1.0	1.1	1.1	1.2	1.4
石川	1.4	1.6	1.9	2.0	2.2	2.5	0.8	1.0	1.2	1.4	1.5	1.6
福井	1.0	1.3	1.5	1.5	1.6	1.8	0.7	0.8	1.0	1.1	1.1	1.2
山梨	1.2	1.3	1.4	1.4	1.6	1.7	0.7	0.8	0.8	0.9	0.9	1.1
長野	3.0	3.6	4.1	4.2	4.4	4.8	1.8	2.3	2.8	3.0	3.1	3.3
岐阜	2.2	2.7	3.2	3.6	3.9	4.4	1.3	1.7	2.1	2.4	2.7	2.9
静岡	3.8	4.8	5.7	6.4	7.1	8.0	2.4	3.0	3.7	4.3	4.8	5.3
愛知	5.5	7.0	8.7	10.3	12.1	14.1	3.4	4.3	5.4	6.7	7.9	9.2
三重	2.0	2.5	2.9	3.2	3.4	3.8	1.2	1.5	1.9	2.1	2.3	2.5
滋賀	1.3	1.6	1.8	2.0	2.3	2.7	0.8	1.0	1.2	1.4	1.5	1.7
京都	2.8	3.4	4.0	4.5	5.1	5.9	1.8	2.1	2.6	3.0	3.4	3.9
大阪	6.8	8.6	10.7	12.8	14.9	16.8	4.2	5.2	6.6	8.1	9.6	11.2
兵庫	5.4	6.9	8.5	9.9	11.3	13.2	3.3	4.3	5.5	6.7	7.6	8.8
奈良	1.4	1.7	2.1	2.4	2.8	3.2	0.9	1.1	1.3	1.6	1.8	2.1
和歌山	1.3	1.6	1.8	2.0	2.1	2.3	0.8	1.0	1.2	1.4	1.4	1.5
鳥取	0.9	1.0	1.2	1.2	1.2	1.3	0.5	0.7	0.8	0.9	0.9	0.9
島根	1.2	1.4	1.6	1.6	1.6	1.7	0.8	0.9	1.1	1.2	1.2	1.1
岡山	2.4	2.9	3.4	3.6	3.9	4.3	1.5	1.9	2.3	2.5	2.7	2.9
広島	3.3	4.0	4.7	5.1	5.6	6.4	2.1	2.6	3.2	3.6	3.9	4.3
山口	2.1	2.5	2.8	3.0	3.1	3.4	1.3	1.6	1.9	2.1	2.2	2.3
徳島	1.1	1.3	1.5	1.5	1.5	1.7	0.7	0.8	1.0	1.1	1.1	1.1
香川	1.3	1.6	1.8	1.9	1.9	2.2	0.8	1.0	1.2	1.3	1.4	1.4
愛媛	1.9	2.3	2.7	2.8	2.9	3.2	1.2	1.5	1.8	2.0	2.1	2.1
高知	1.2	1.5	1.7	1.7	1.8	1.9	0.8	0.9	1.1	1.2	1.2	1.3
福岡	5.2	6.5	7.7	8.6	9.4	10.8	3.2	4.1	5.1	5.9	6.5	7.1
佐賀	1.1	1.3	1.5	1.5	1.6	1.7	0.7	0.8	1.0	1.1	1.1	1.1
長崎	1.9	2.3	2.6	2.8	2.8	3.0	1.2	1.5	1.7	1.9	2.0	2.0
熊本	2.5	3.0	3.5	3.7	3.8	4.1	1.6	2.0	2.4	2.7	2.7	2.8
大分	1.6	1.9	2.2	2.4	2.4	2.7	1.0	1.2	1.5	1.7	1.7	1.8
宮崎	1.4	1.8	2.1	2.3	2.3	2.5	0.9	1.1	1.4	1.6	1.7	1.7
鹿児島	2.5	3.0	3.3	3.4	3.4	3.5	1.5	1.9	2.2	2.5	2.5	2.4
沖縄	1.2	1.5	1.8	2.2	2.4	2.7	0.8	1.0	1.2	1.5	1.8	1.9
全国	126.4	158.4	190.1	213.5	236.7	266.2	77.8	98.2	122.1	142.6	158.2	176.0

(注 1) 出現率は旧厚生省「老人保健福祉計画策定に当たっての痴呆性老人の把握方法等について」、1992。

(注 2) 人口推計は、(統計情報研究開発センタ - 『市区町村別将来推計人口』2002 年 2 月。

ただし、群馬県と長野県については、参考データを使用。

【付属資料 - 8】 名古屋市，知多地域，三河地域の 80 歳以上及び 85 歳以上痴呆性高齢者の推移予測

(人)

	80 歳以上痴呆性高齢者						85 歳以上痴呆性高齢者					
	05 年	10 年	15 年	20 年	25 年	30 年	05 年	10 年	15 年	20 年	25 年	30 年
名古屋市	17,877	22,873	28,458	33,288	37,726	42,429	10,772	13,784	17,600	21,734	24,986	28,268
半田市	859	1,119	1,380	1,618	1,854	2,131	524	677	876	1,056	1,221	1,392
常滑市	573	691	800	889	949	1,004	355	432	517	590	647	683
東海市	574	737	954	1,188	1,394	1,547	347	417	544	703	863	999
大府市	499	662	841	1,039	1,291	1,546	309	407	538	672	825	1,032
知多市	527	672	835	1,046	1,306	1,571	321	398	511	625	787	979
阿久比町	251	326	414	516	617	730	168	220	283	356	442	520
東浦町	319	416	525	659	798	958	190	246	319	397	500	596
南知多町	280	345	398	415	409	418	167	205	252	284	287	279
美浜町	255	317	375	417	456	514	153	191	236	273	300	325
武豊町	265	353	449	557	705	856	164	209	280	348	429	548
知多地域	4,402	5,639	6,972	8,345	9,779	11,276	2,697	3,402	4,353	5,303	6,300	7,352
岡崎市	2,489	3,251	4,058	4,745	5,558	6,727	1,542	1,998	2,597	3,184	3,636	4,301
碧南市	575	726	875	967	1,059	1,169	358	432	550	649	697	769
刈谷市	824	1,071	1,341	1,621	1,947	2,371	516	653	850	1,047	1,254	1,507
安城市	959	1,240	1,568	1,897	2,259	2,744	586	733	952	1,192	1,420	1,693
西尾市	879	1,098	1,310	1,462	1,628	1,875	554	684	851	994	1,090	1,218
知立市	382	502	661	825	980	1,151	247	309	410	537	657	772
高浜市	318	413	511	589	649	724	204	255	335	405	458	498
一色町	281	341	392	417	436	481	179	216	260	293	304	319
吉良町	202	237	267	278	289	327	122	133	160	175	179	187
幡豆町	159	201	238	257	271	301	97	128	158	184	192	203
幸田町	259	334	403	472	558	679	166	209	271	319	371	440
額田町	139	187	224	237	246	273	89	117	159	180	184	192
西三河	7,467	9,602	11,848	13,767	15,881	18,820	4,660	5,867	7,552	9,157	10,443	12,099
豊橋市	3,178	3,932	4,684	5,341	6,100	7,125	1,992	2,451	3,015	3,539	3,980	4,576
豊川市	1,015	1,237	1,465	1,705	1,989	2,326	649	800	962	1,129	1,310	1,531
蒲郡市	817	1,007	1,217	1,372	1,491	1,596	501	615	755	904	995	1,076
田原町	380	443	494	511	545	633	253	288	338	369	371	405
赤羽根町	74	92	103	103	101	107	46	52	66	71	69	68
音羽町	67	80	88	103	126	152	38	46	54	57	70	85
一宮町	168	212	245	275	315	376	111	140	176	195	221	252
小坂井町	182	235	296	353	404	457	106	136	175	219	257	290
御津町	150	193	228	254	280	308	92	116	151	171	190	208
渥美町	298	357	397	398	396	423	186	221	264	284	277	277
東三河	6,329	7,788	9,217	10,416	11,746	13,501	3,974	4,864	5,957	6,938	7,741	8,769
愛知県	54,933	70,034	86,922	103,488	121,243	140,721	33,783	42,697	54,341	66,799	78,639	92,280

(注 1) 出現率は旧厚生省「老人保健福祉計画策定に当たっての痴呆性老人の把握方法等について」, 1992.

(注 2) 人口推計は, 働統計情報研究開発センター「市区町村別将来推計人口」2002 年 2 月.

注

- 1 厚生労働省老健局長の私的研究会である高齢者介護研究会『2015年の高齢者介護～高齢者の尊厳を支えるケアの確立に向けて～』, 2003年6月.
- 2 『週刊社会保障』法研, no. 1693, 1992年6月15日号.
- 3 高橋紘一「現代的生活貧困と福祉産業」, 『現代と文化——日本福祉大学研究紀要』第107号, 2002年12月を参照されたい.
- 4 『週刊社会保障』法研, no. 1585, 1990年5月7日号, p. 37.
- 5 高橋紘一「2000年の寝たきり高齢者とホームヘルパー——その都道府県別状況」『週刊社会保障』法研, no. 1641, 1991年6月10日号.
- 6 『厚生白書』1999年版, p. 197.
- 7 国保中央会のホームページより.
- 8 『二一世紀 調布 幸せな暮らしをめざして——調布市地域福祉計画』1993(平成5)年3月, p. 40.
- 9 『週刊社会保障』法研, no. 2162, 2001年11月26日号.
- 10 『週刊社会保障』法研, no. 2184, 2002年5月13日号.
- 11 「老人保健福祉計画策定に当たっての痴呆性老人の把握方法等について」1992年.
- 12 なお『把握方法』では調査が可能な地域における面接調査の方法にも言及している.
- 13 高橋紘一「2000年の痴呆性高齢者-その都道府県別状況について」『週刊社会保障』法研, no. 1693, 1992年6月15日号, p. 22.
- 14 高橋紘一「介護保険下の特別養護老人ホーム経営」, 『週刊社会保障』法研, no. 2008, 1998年10月12日号, p. 28.
- 15 金子満雄『ボケてたまるか——痴呆は自分で防ぐ, 家族で治す』, 角川文庫, 2003年, p. 4.
- 16 財団法人統計情報研究開発センターの説明書による.
- 17 高橋紘一「現代的生活貧困と福祉産業」, 『現代と文化——日本福祉大学研究紀要』第107号, 2002年12月, p. 35. なお, 筆者はこの論文において「福祉産業」について詳細に論じているので, 参照されたい.
- 18 『2015年の高齢者介護～高齢者の尊厳を支えるケアの確立に向けて～』